

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	アナウンスメントの基礎						
担当教員	吉岡 美賀子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	アナウンスメントの基本とされるニュース原稿の読みについて理解と実践						
授業の概要	アナウンスメントというとテレビやラジオのアナウンサーを思い浮かべるでしょう。本講義では、そのアナウンサーの基礎となる技術を学びます。しかし、その技術は、マスコミュニケーションの道具としてだけでなく、様々な場面で多人数に対して「伝える」という意味では、実社会で役立つ技術であると考えます。発声練習をはじめ、発音、アクセント、滑舌など、アナウンスメントの基本を理解し、その後、放送におけるアナウンスメントの基本となるニュース原稿を読んで、その実践に取り組みます。						
到達目標	ニュース原稿を読む技術を理解し、実践できること						
授業計画	第1回 講義説明と発声練習 第2回 発声練習 第3回 日本語における各音節の発音 第4回 ガ行鼻濁音 第5回 母音の無声化 第6回 短文練習 第7回 アクセント 第8回 アクセント練習 第9回 ニュース原稿の読み方①(時事・政治) 第10回 ニュース②(時事・経済) 第11回 ニュース③(季節) 第12回 ニュース④(行事) 第13回 ショートニュースの読み方 VTR収録のための諸注意 第14回 VTR収録 第15回 VTR視聴と講評 (受講者数によって内容が前後することがあります。)						
授業外における学習(準備学習の内容)	後半は実践が主になるので、発表の前には必ず練習をしておくこと。練習は必ず本番をイメージして行うこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	実技40%、ミニレポート(授業の中で提出)60%、欠席は減点。遅刻は3回で欠席1回と同等扱い。3分の2以上の出席と課題実技(VTR収録)がなければ、単位は認めない。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	音韻・表記の基礎知識／国語学講読C						
担当教員	吉井 健						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の音韻・表記についての問題を、歴史的な背景も視野に入れて考える。						
授業の概要	日本語の音韻・表記についての基礎的事項を、歴史的な背景も視野に入れて考える。現代語表記についても、音韻との関連だけではなく、歴史的な背景は必須である。日本語にはどのような音声があり、どのように生み出されているか、また、それぞれの音声がどのように区別され、たがいにはどのような関係にあるか考える。仮名遣いを中心に音声と表記との関係を考える。 具体的にはなぜハ行にのみ半濁音というものがあるのか、大阪と逢坂ではなぜ仮名表記が異なるのかといった具体的な問題を取り上げ、音韻・表記が負っている歴史性について語る能慮行くの育成を目指す。						
到達目標	音韻・表記の基礎的事項を理解し、現代日本語の表記の背景を知る。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 音声と音韻 1 音声と音韻の違い 2) 音声と音韻 2 母音と子音 音節と拍(モーラ) 3) 音声と音韻 3 清音と濁音 拗音 4) 音声と音韻 4 アクセント・イントネーション 5) 音韻の変遷 1 上代特殊仮名遣 (併せて一音節語) 6) 音韻の変遷 2 アヤワ行音の変遷 ハ行音の変遷 7) 音韻の変遷 3 母音連続 音便など 8) 音声言語と書記言語 9) 表記の変遷 1 日本での文字使用 漢字から仮名へ 10) 表記の変遷 2 仮名遣いの発生 11) 現代の表記 1 現代仮名遣 12) 現代の表記 2 語種と表記 ローマ字 13) 現代の表記 3 漢字制限 14) 現代の表記 4 新しい表記 表記の戯れ 15) まとめ 						
授業外における学習(準備学習の内容)	準備は特に必要ないが、授業が進むに従って、音韻・表記の問題を身近な例で確認することに努めてほしい。小テストを行い、復習の助けにしたい。						
授業方法	講義を基本とするが、少人数の場合は課題について発表してもらう。						
評価基準と評価方法	数回の小テストおよび平常点(少人数の場合、発表を含む)						
教科書	プリント配布						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	華道史						
担当教員	小林 善帆						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化としてのいけ花（華道）						
授業の概要	いけ花の歴史や理論を古記録や連歌、花の伝書にふれることから知る。いけ花をその空間全体で捉え、世界における日本文化という視点から考えてみる。						
到達目標	いけ花の歴史と理論を学ぶことから日本文化の形成と本質を理解し、教養を深め、海外への日本文化紹介の一助となるようにする。						
授業計画	第一回 ジョサイア・コンドルの眼差しに見るいけ花 第二回 華道（いけ花）通史・用語解説 空間といけ花 第三回 いけ花以前 和歌・連歌といけ花 第四回 「たて花」と連歌・能・聞香 第五回 『仙伝抄』『専応口伝』にみるいけ花 第六回 『抛入花伝書』にみる「抛入」「茶花」 第七回 『立花大全』『立花時勢粧』にみる「立花」 第八回 中国瓶花の影響と「文人花」 第九回 『挿花百練』にいたる「生花」 第十回 「盛花」以降のいけ花と様式 第十一回 嗜み・しつけ、花嫁修業、精神修養といけ花 第十二回 芸道といけ花 キリスト教主義の女学校といけ花 第十三回 現代美術といけ花 家元制度といけ花作家 第十四回 世界の中のいけ花 フラワーアレンジメント・韓国コッコジとの比較参照 第十五回 日本文化としてのいけ花						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で興味を持ったことに関して図書館で調べてみる。各自いけ花展に行ってみたり、部屋に花をいけてみたりする。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート50%、平常点（小テストを含む）50%						
教科書	適宜プリント配布						
参考書	『「花」の成立と展開』小林善帆 和泉書院 2007年 ISBN978-4-7576-0441-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	漢文を読むA						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国三千年の歴史と、それを受容した先人の工夫を理解する。						
授業の概要	中国とその文学の歴史を把握するとともに、それを受容するための工夫、すなわち中国語を日本語の体系に組み入れた訓読法の諸相を学ぶ。中国文学の流れの大枠を捉えた上で、実際に文献を読む実践編に入り、中国文学の本質に迫ることができるようにする。						
到達目標	漢文を通じて中国文化を正當に評価できる力を身に付ける。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：中国三千年の歴史 第3回：神話の時代 第4回：諸子百家の時代 第5回：諸子百家の思想 第6回：諸子百家の文学 第7回：漢代の散文 第8回：漢代の韻文 第9回：唐代の散文 第10回：唐代の韻文 第11回：唐詩選の受容 第12回：蒙求の時代 第13回：四大奇書 第14回：まとめと筆記試験 第15回：総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	現代の中国とその歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	漢文学び方の基礎（改訂版） 近藤春雄著 武蔵野書院刊 ISBN：9784838606153 価格：¥630						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	漢文を読むB						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国文化を正に評価できる力をつけることこそが日本文化の本当の理解につながる						
授業の概要	すでに身に付けた漢文訓読の基礎を確かなものとし、その土台に基づいて「蒙求」「史記」「論語」などの文献を、実際に読む。さまざまなジャンルの作品を数多く読むことで、理屈のみではなく、感覚として、先人が苦勞して編み出してきた漢文訓読の偉大さを実感できるようにする。						
到達目標	「蒙求」などの講読を通して、中国文化の理解や日本文化への影響を理解する。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：漢文の作品についての概観 第3回：「蒙求」の講読 導入 第4回：「蒙求」の講読 展開 第5回：「蒙求」の講読 応用 第6回：「蒙求」の講読 まとめ 第7回：「史記」の講読 導入 第8回：「史記」の講読 展開 第9回：「史記」の講読 応用 第10回：「論語」の講読 導入 第11回：「論語」の講読 展開 第12回：「論語」の講読 応用 第13回：漢文の日本文学への影響 第14回：まとめと筆記試験 第15回：総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	現代の中国とその歴史について詳しく学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	近代文学を読むA						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	犯罪の観点から小説を読む						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、泉鏡花「外科室」と志賀直哉「范の犯罪」の2作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を理解する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 作家泉鏡花のこと 第3回 泉鏡花の作品について 第4回 泉鏡花「外科室」講読 導入 第5回 泉鏡花「外科室」講読 応用 第6回 泉鏡花「外科室」講読 発展 第7回 泉鏡花「外科室」講読 展開 第8回 泉鏡花「外科室」講読 まとめ 第9回 志賀直哉のこと 第10回 志賀直哉「范の犯罪」講読 導入 第11回 志賀直哉「范の犯罪」講読 応用 第12回 志賀直哉「范の犯罪」講読 発展 第13回 志賀直哉「范の犯罪」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学を読むB						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	探偵小説を読むこと						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、谷崎潤一郎「途上」と芥川龍之介「報恩記」の2作品を取りあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を理解する。						
授業計画	第2回 作家谷崎潤一郎のこと 第3回 谷崎潤一郎の作品について 第4回 谷崎潤一郎「途上」講読 導入 第5回 谷崎潤一郎「途上」講読 応用 第6回 谷崎潤一郎「途上」講読 発展 第7回 谷崎潤一郎「途上」講読 展開 第8回 谷崎潤一郎「途上」講読 まとめ 第9回 芥川龍之介のこと 第10回 芥川龍之介「報恩記」講読 導入 第11回 芥川龍之介「報恩記」講読 応用 第12回 芥川龍之介「報恩記」講読 発展 第13回 芥川龍之介「報恩記」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に指示						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むA						
担当教員	田中 まき						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	『竹取物語』の講読						
授業の概要	<p>平安時代前期に成立した、現存最古の物語『竹取物語』を講読する。 『竹取物語』は「かぐや姫」の物語として名高いが、羽衣伝説や竹取の翁伝説を中心に、求婚難題説話や地名起源伝説などを付加して構成され、その他、漢籍、仏典との関係も注目される伝奇物語である。 また、五人の貴公子の失敗談には、貴族社会に対する風刺が込められており、興味深い。 本授業では、このような事柄に注目しながら、『竹取物語』の特質を探究する。 なお、一方的な講義ばかりではなく、一人一人が調べて来て、発表する演習形式も取り入れる。 さらに、古典語彙、文語文法などを身に付け、古文読解の能力を高めるよう読み進める。</p>						
到達目標	<p>平安時代の物語文学一般、また『竹取物語』そのものの特質を探究する。 さらに、古典語彙、文語文法などに着目して、古文読解の能力を高めさせることも目標とする。</p>						
授業計画	第1回 平安時代の物語文学についての概説 第2回 『竹取物語』についての概説 第3回 『竹取物語』の諸本（本文系統）についての講義 第4回 『竹取物語』の冒頭文についての講義 第5回 五人の貴公子の求婚談についての講読 第6回 「仏の御石の鉢」についての講読 第7回 「蓬萊の玉の枝」前半についての講読 第8回 「蓬萊の玉の枝」後半についての講読 第9回 「火鼠の皮衣」についての講読 第10回 「龍の頸の珠」についての講読 第11回 「燕の子安貝」についての講読 第12回 「かぐや姫の昇天」についての講読 第13回 「不死の薬」と「富士の山」についての講読 第14回 まとめと試験 第15回 『竹取物語』についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	古文読解の基礎力が不足している場合は、古典語彙、文語文法などの知識を自宅学習で補う必要がある。						
授業方法	講義と講読（受講者による担当発表）						
評価基準と評価方法	試験（70%）、担当発表の内容（20%）、平常点（10%）によって評価する。						
教科書	竹取物語〔訂正増補版〕 松尾聰 校注解説 笠間書院 4-305-00050-4						
参考書	新編日本古典文学全集『竹取物語』片桐洋一（小学館） 新日本古典文学大系『竹取物語』堀内秀晃（岩波書店） 『竹取物語全評釈』（本文評釈篇）上坂信男（右文書院）						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むB						
担当教員	田中 まき						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	『大和物語』の講読						
授業の概要	<p>平安時代の歌物語である『大和物語』を講読する。 『大和物語』百七十三章段のうち、百四十章段あまりの前半は当代（平安時代前期）の人々の歌語りの集積であり、後半は古代の伝承を中心とした昔語りの集積である。 本授業では、それらの特質を考察するとともに、それぞれの章段に現れている、恋や友情、宮廷生活や夫婦のあり方、装束や住まいなど、様々な面から平安貴族の生活の様相を探究する。 なお、一方的な講義ばかりではなく、一人一人が調べて来て、発表する演習形式も取り入れる。 さらに、古典語彙、文語文法などを身に付け、古文読解の能力を高めるよう読み進める。</p>						
到達目標	<p>平安時代における歌物語について、また『大和物語』そのものの特質を探究する。 さらに、古典語彙、文語文法などに着目して、古文読解の能力を高めさせることも目標とする。</p>						
授業計画	第1回 平安時代の物語文学の概観についての講義 第2回 『大和物語』についての講義 第3回 第一段の講義 第4回 第二・三段の講読 第5回 第四・八段の講読 第6回 第二十五・二十七段の講読 第7回 第二十九・三十段の講読 第8回 第四十一・四十二段の講読 第9回 第四十五・五十八段の講読 第10回 第七十・七十六・七十七段の講読 第11回 第九十一・九十九段の講読 第12回 第四百七段前半の講読 第13回 第四百七段後半の講読 第13回 第四百九段の講読 第14回 まとめと試験 第15回 『大和物語』についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	古文読解の基礎力が不足している場合は、古典語彙、文語文法などの知識を自宅学習で補う必要がある。						
授業方法	講義と講読（受講者による担当発表）						
評価基準と評価方法	試験（70%）、担当発表の内容（20%）、平常点（10%）によって評価する。						
教科書	校注大和物語 柳田忠則編(新典社) 978-4-7879-0805-6						
参考書	『大和物語全釈』森本茂（大学堂書店） 新編日本古典文学全集『竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』高橋正治（小学館） 『大和物語評釈』今井源衛（笠間書院） 講談社学術文庫『大和物語（上）・（下）』雨海博洋（講談社）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むC						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	御伽草子を読む						
授業の概要	室町時代から江戸時代初期に作られ、広い階層に読み継がれてきた御伽草子を読む。 1 『一寸法師』…昔話で知っている話とは似ているようで異なる。どこが違うか、なぜ違うのか。 2 『さいき』…九州と花の都京都、そこで愛した二人の女性。この二人が出会った後の男の運命はいかに。 3 『横笛の草子』…平家物語でも知られる悲恋の物語。薄幸の美女横笛と、平家の若武者滝口の恋の行方。						
到達目標	絵本など現代にまで伝わる日本文化の「源（みなもと）」を知るとともに、室町期の日本語の文体や文化を学ぶ。						
授業計画	第1回 御伽草子について 第2回 『一寸法師』 1 第3回 『一寸法師』 2 第4回 『一寸法師』 3 第5回 昔話と御伽草子 第6回 『さいき』 1 第7回 『さいき』 2 第8回 『さいき』 3 第9回 『さいき』 4 第10回 宗教と御伽草子 第11回 『横笛の草子』 1 第12回 『横笛の草子』 2 第13回 『横笛の草子』 3 第14回 『横笛の草子』 4 第15回 古典と御伽草子						
授業外における学習（準備学習の内容）	演習形式で行うため1回以上の発表が必須。担当範囲は受講生が決定後すぐに行うが、発表のための準備を行う必要がある。具体的には語釈や現代語訳など。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表50% 小テスト20% 期末テスト30%						
教科書	プリントを配付						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むD						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	浮世草子を読む						
授業の概要	江戸時代に作られた、井原西鶴の「お金」にまつわる浮世草子を読む。 1「大晦日は合はぬ算用」…『西鶴諸国ばなし』にある、一枚足りなくなった小判の物語。 2「小判は寝姿の夢」…『世間胸算用』にある夫婦の話。金持ちを夢見ながら、貧しい現実の生活の中で妻を奉公に出す男の悲哀の物語。 3「人には棒振虫同然に思はれ」…『西鶴置土産』にある落ちぶれた男の話。裕福であった時の友人に出会った男の意地の物語。						
到達目標	現代の小説につながる日本近代小説の「源（みなもと）」を知るとともに、江戸時代の日本語の文体や文化を学ぶ。						
授業計画	第1回 浮世草子について 第2回 「大晦日は合はぬ算用」 1 第3回 「大晦日は合はぬ算用」 2 第4回 「大晦日は合はぬ算用」 3 第5回 「大晦日は合はぬ算用」 4 第6回 「小判は寝姿の夢」 1 第7回 「小判は寝姿の夢」 2 第8回 「小判は寝姿の夢」 3 第9回 「小判は寝姿の夢」 4 第10回 江戸時代の経済 第11回 「人には棒振虫同然に思はれ」 1 第12回 「人には棒振虫同然に思はれ」 2 第13回 「人には棒振虫同然に思はれ」 3 第14回 「人には棒振虫同然に思はれ」 4 第15回 江戸時代の小説						
授業外における学習（準備学習の内容）	演習形式で行うため1回以上の発表が必須。担当範囲は受講生が決定後すぐに行うが、発表のための準備を行う必要がある。具体的には語釈や現代語訳など。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表50% 小テスト20% 期末テスト30%						
教科書	プリントを配付						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	ことばの調べ方／国語学講読B						
担当教員	吉井 健						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばに関するデータを集め、客観的に分析する方法を学ぶ。 文法・語彙・音声や言語の運用と言った言語の仕組みを理解するには、十分なデータとそれに対する適切な分析が必要である。						
授業の概要	現代日本語について考える場合にも、内省だけではなく、使用実態などについてのデータを集めることが必須である。この授業では、具体的な問題をいくつか設定し、ことばについて調べる手段を解説する。アンケート調査もそういった手段の一つであるが、この授業では文献や電子テキスト、インターネットなどを用いて調べる場合を中心として考える。						
到達目標	ことばに関するデータを、研究に活かすために、適切に集める方法を身につける。						
授業計画	第1回 何のために調べるのか？ 第2回 調べるツール 文献活用篇 日本国語大辞典 その1 第3回 日本国語大辞典 その2 第4回 逆引き辞典・類語辞典・シソーラス 第5回 古語辞典 索引・インデックス 第6回 時代別古語辞典 各時代の辞書類 第7回 その他、事典類など 第8回 文献活用篇復習 まとめ 第7回 調べるツール パソコン活用篇 CD-ROM版テキストデータ1 第8回 CD-ROM版テキストデータ2 第9回 ネット上のデータ1 新語を調べる 第10回 ネット上のデータ2 国会会議録 第11回 ネット上のデータ3 新聞・青空文庫 第12回 ネット上のデータ4 その他のコーパス等 第13回 パソコン活用篇復習 まとめ 第14回 アンケート・対面調査 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業ではサンプルを取り上げて解説するが、それを自分でやってみることがぜひ必要である。そのための調査課題を適宜与える。						
授業方法	講義および発表						
評価基準と評価方法	調査課題についてのレポート70%（少人数の場合発表も含む） 平常点30%						
教科書	プリント配布						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	茶道史						
担当教員	片岡 利博						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	茶道と、その歴史						
授業の概要	茶をめぐる日本の文化は、日本文化史において独自の発展を遂げ、今日、日本の転倒文化を代表するもののひとつとなっている。中国唐代の喫茶文化の模倣から急速に貴族たちの間に広まった平安時代の茶。禅の実践の中で精神性を深めてゆくいっぽう、権力構造の中に取り込まれるようになっていった中世の茶。利休により至高の精神性を獲得するに至った近世の茶。茶をめぐる文化は、それぞれの時代精神や周辺のさまざまな文化事象と密接に関わりながら展開してきた。本講義では、代表的な茶道関連文献を紹介しつつ、日本における茶の文化を歴史的に概観する。						
到達目標	茶道についての基礎知識を修得し、茶道に親しめるようになってほしい。						
授業計画	(1) 現代生活と茶 (2) 茶葉について (3) 亭主と客・もてなしの心 (4) 茶道具概説(1) (5) 茶道具概説(2) (6) 茶事概説(1) 正午の茶事 (7) 茶事概説(2) その他の茶事 (8) 種々の茶会 (9) 茶の歴史(1) 利休 (10) 茶の歴史(2) 利休以前 (11) 茶の歴史(3) 利休以前 (12) 茶の歴史(4) 利休以前 (13) 茶の歴史(5) 利休以後 (14) まとめ (15) 試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	美術館、茶道具店等で、できるだけ多くの茶道具を見ること。 機会があれば、積極的に茶会に参加すること。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	期末試験						
教科書	『茶道文化検定 公式テキスト1級2級用一茶の湯を学ぶ本一 (淡交社刊・2100円)』						
参考書	教室で指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道講義						
担当教員	花田 尊文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	書論と鑑賞						
授業の概要	書論を中心に解説、考察する。書論とは何か、どのような書論があるのか、特に「書譜」の講読に重点をおいて学習する。 「書の鑑賞」について解説、考察する。実際に鑑賞体験を通じて鑑賞力を高め感性・知性を磨きたい。						
到達目標	書論について理解（孫過庭『書譜』の論旨について学習、理解を深める）。 鑑賞の段階や方法を理解したうえで鑑賞力の向上を目指す（自らの眼で観、頭で考え、心で感じとる）。						
授業計画	第1回：諸注意、伝達事項、シラバス配布と関連参考文献の紹介、授業の進め方の説明。書論について略説。 第2回：「書譜」講読。（第一篇 四賢の優劣論） 第3回：「書譜」講読。（第二篇 書の本質と価値、芸術論） 第4回：「書譜」講読。（第二篇 書の本質と価値、書体論・使転形質、五合五乖） 第5回：「書譜」講読。（第三篇 六朝以来の書論） 第6回：「書譜」講読。（第四篇 執使用転の説、王羲之の書の価値） 第7回：「書譜」講読。（第五篇 書表現の基盤と段階、意前筆後、三時三変） 第8回：「書譜」講読。（第五篇 書表現の基盤と段階、淹留勁疾・運筆論、様態九例） 第9回：「書譜」講読。（第六篇 書の妙境と批判、跋語） 第10回：「書の鑑賞」について解説。 第11回：鑑賞演習（楷書）。 第12回：鑑賞演習（行草書）。 第13回：鑑賞演習（行草書）。 第14回：鑑賞演習（漢字仮名交じり書）。 第15回：鑑賞演習（漢字仮名交じり書）。						
授業外における学習（準備学習の内容）	書論（「書譜」講読）については予習必須。単にテキストを読むだけでなく、工具書・参考書などにより語意・文意の理解を深めるよう努力すること。						
授業方法	講義、演習。						
評価基準と評価方法	レポートの提出40%。平常点40%。発表20%。						
教科書	書名/中国法書ガイド 38『書譜』 著訳編註名/二玄社編 出版社/二玄社 ISBN/4544021383 必要に応じプリントを配布する。						
参考書	「書譜」書論双書（田邊萬平著）日本習字普及協会 通解・孫過庭「書譜」（藤原楚水著）清雅堂 中国書論大系・第2巻「唐 I」（P93～P177、書譜）二玄社						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（仮名A）						
担当教員	釣 年子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	書道実技く仮名A)						
授業の概要	仮名は日本で生まれ育ち、平安王朝の美を代表するものの一つである。現代でもひらがながきれいに書けるだけで文字は随分印象が良くなる。その雅な仮名の書き方の基礎を学ぶ。小筆（面相）を使用し、練習するかなの種類は、ひらがな、変体仮名、カタカナの三種。						
到達目標	仮名の発生の歴史を理解し、仮名学習に必要な執筆法の習得と仮名および変体仮名の運筆法の習得						
授業計画	1) ガイダンスー仮名とは - 仮名の歴史 2) 姿勢・執筆法・基本練習 「いろは」単体の練習 1ー「いろはにほへとちりぬるを」 3) 2ー「わかよたれそつねならむう」 4) 3ー「為のおくやまけふこえてあ」 5) 4ー「さきゆめみしえひもせず」 6) 5ー「いろは」全文 「とりなく・・・」仮名字源 7) 比較書写ー実用の仮名とは 8) 変体仮名練習ー1 9) 変体仮名練習ー2 10) 仮名連綿練習ー1 11) 仮名連綿練習ー2 12) 仮名連綿練習ー3ー実用日常語の練習 13) 仮名連綿練習ー4ー実用日常語 年賀状 お礼状など 14) 俳句作品練習 15) 和歌作品練習						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	実技						
評価基準と評価方法	出席、提出作品、授業への取り組みを評価する。						
教科書	手本 プリントを配布します。授業中に紹介します。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（仮名B）						
担当教員	釣 年子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	書道実技（仮名B）						
授業の概要	仮名一応用編 書道実技（仮名A）基礎の応用として、さまざまな書式を試みる。俳句、和歌の散らし書き構成法を学び、短冊、色紙、扇面などに挑戦する。美しい仮名の加工紙（料紙）も作ってみたい。						
到達目標	俳句、和歌などの散らし書きを学ぶ 色紙、短冊、扇面など様々な書式を知る						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 散らし書き演習（1）「いろは」単体・連綿の復習 2) 散らし書き演習（2）「和歌を書く」一部分練習 3) 色紙に書く（1）散らし書き演習「和歌を書く」－連綿と構成の意味を考え、その方法を学ぶ 4) 色紙に書く（2）散らし書き清書「和歌を書く」－墨量、濃淡を生かす 5) 短冊に書く（1）俳句または和歌を作ろう 6) 短冊に書く（2）短冊に書く形式を学ぶ 7) 短冊に書く（3）俳句または和歌の清書 8) 大字の仮名を書こう（1）半切二分の一演習（イ） 9) 大字の仮名を書こう（2）半切二分の一演習（ロ） 10) 大字の仮名を書こう（3）半切二分の一清書 11) 料紙の年賀状を作ろう 12) 料紙の年賀状を書こう 13) 扇面－1－扇面の様々な種類を知ろう 14) 扇面－2－扇面に書く形式を学ぶ 15) 扇面－3－扇面の清書 						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	実技演習						
評価基準と評価方法	出席、提出作品、授業への取り組みを評価する						
教科書	手本 プリントを配布します。授業中に紹介します						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	書道実技（行書）						
担当教員	室之園 裕美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	行書の基本用筆を理解・習得した上で、行書の古典作品を臨書する。						
授業の概要	行書を実技面・理論面の両面から理解できるよう、実技と講義で展開する。 実技・講義ともに行書の基本的なことから、芸術としての行書まで幅広く見ていくことにする。						
到達目標	行書の基本的な知識と技法を習得する。また、古典作品の鑑賞の仕方や臨書が出来るようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1、硬筆による行書の基礎を習得する（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） ～点画の曲線化、点画の連続、点画の変化、点画の省略について～ 2、硬筆による行書の基礎を習得する（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） ～点画の方向の変化、点画の長短の変化について～ 3、硬筆による行書の基礎を習得する（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） ～筆順の変化、外形の変化について～ 4、毛筆による行書の基礎を習得する～点画の曲線化、連続、変化、省略について～ 5、毛筆による行書の基礎を習得する～点画の方向の変化、長短の変化について～ 6、毛筆による行書の基礎を習得する～筆順の変化、外形の変化について～ 7、王羲之『蘭亭序』について・古典作品の鑑賞の仕方について・臨書について／王羲之『蘭亭序』より4文字臨書 8、半紙作品のまとめ方について／王羲之『蘭亭序』より4文字臨書 9、半切作品のまとめ方について／王羲之『蘭亭序』より4文字臨書 10、王羲之のその他の作品について／王羲之『蘭亭序』より半切に14文字臨書 11、王羲之以外の書家（中国）について、課題について／王羲之『蘭亭序』より半切に14文字臨書 12、王羲之以外の書家（日本）について／課題制作に向けての練習 13、課題作品制作①（半切2分の1） 14、課題作品制作②（半紙） 15、課題作品制作③（半切）、作品・レポート提出 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前：授業計画に従って、次回授業ですることを目を通しておく。</p> <p>授業後：授業内に出来なかった課題や技法を次回授業までに出来るようにしておく。</p>						
授業方法	講義と実技による。						
評価基準と評価方法	平常点20%、課題30%、作品・レポート50%						
教科書	蘭亭叙〈五種〉[東晋・王羲之／行書]二玄社						
参考書	必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（硬筆）						
担当教員	室之園 裕美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「書は人なり」という言葉があるように、字には書き手の人柄や性格などが表れる。言い換えれば、書いた字によって自分の印象が決まるのである。一見、きれいだけれど頼りない字。または、大きっぱだけれど温かみの感じられる字など、様々である。そこでこの授業では、いま一度自分の字を改めて見ることにより、自分の字の特徴を知り、より良い字が書けるようになるのがテーマである。						
授業の概要	硬筆での文字を正しく丁寧に、用途に応じて書けるように、そのポイントを習得し、集中力を身につける。また書くだけではなく草書体や書写体、旧字体が読めるようになる。実技演習中心。解説のための講義を行う。硬筆には、普段書く字、実用書、作品と用途によって様々な表現方法がある。また扱う書体も楷書、行書、草書、ひらがな、仮名がある。そのためそれぞれの特徴を知り、基本の書き方を学び、用途に合わせて実際読み書きできるように練習する。						
到達目標	文字を正しくていねいに、用途に応じて書くことが出来るように、そのポイントを理解し、習得する。また、書くだけでなく、草書体や旧字体、書写体が読めるようになる。加えて、常用漢字の正しい筆順と部首名も習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1、オリエンテーション（授業内容の説明や持ち物や注意事項の伝達）、鉛筆の持ち方と書くときの姿勢などの確認。自分の名前を各書体で書く。 2、ひらがなの成立と書き方について。ひらがなの字源を知る/楷書体に合うひらがなと行書体に合うひらがなの練習。 3、楷書体について：字形の整え方について/楷書体の基本用筆の練習（基礎編） 4、楷書体について：縦書きの文章の書き方について/楷書体の基本用筆の練習（応用編） 5、楷書体について：横書きの文章の書き方について/楷書体についてのまとめ 6、行書体について：行書体の基本用筆の練習（基礎編） 7、漢字の部分の名称について、常用漢字の筆順について/行書体の基本用筆の練習（応用編） 8、草書体について：草書体を読み書きする/行書体についてのまとめ 9、実用書の書き方について：はがきの表裏の書き方について 10、実用書の書き方について：手紙文の書き方について（文章、用語、書き出し、結びの言葉など） 11、実用書の書き方について：封筒の表裏の書き方について、掲示文の書き方について 12、筆ペンによる実用書の練習 13、筆ペンによる作品制作（練習） 14、筆ペンによる作品制作（清書） 15、まとめとテスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、次回授業の予習。 授業後：授業内に出来なかった箇所の自主練習。 授業前・後に関わらず、字がきれいになるにはとにかく書くことが必須です。自ら課題を見付けて積極的に書いてください。						
授業方法	講義と実技による。						
評価基準と評価方法	平常点20%、課題30%、試験50%						
教科書	「ペン習字の基本」 修文館出版株式会社 「ペン習字ノート」（「ペン習字の基本」準拠） 修文館出版株式会社						
参考書	必要に応じてプリント配布。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（硬筆）						
担当教員	室之園 裕美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「書は人なり」という言葉があるように、字には書き手の人柄や性格などが表れる。言い換えれば、書いた字によって自分の印象が決まるのである。一見、きれいだけれど頼りない字。または、大きっぱだけれど温かみの感じられる字など、様々である。そこでこの授業では、いま一度自分の字を改めて見ることにより、自分の字の特徴を知り、より良い字が書けるようになるのがテーマである。						
授業の概要	硬筆での文字を正しく丁寧に、用途に応じて書けるように、そのポイントを習得し、集中力を身につける。また書くだけではなく草書体や書写体、旧字体が読めるようになる。実技演習中心。解説のための講義を行う。硬筆には、普段書く字、実用書、作品と用途によって様々な表現方法がある。また扱う書体も楷書、行書、草書、ひらがな、仮名がある。そのためそれぞれの特徴を知り、基本の書き方を学び、用途に合わせて実際読み書きできるように練習する。						
到達目標	文字を正しくていねいに、用途に応じて書くことが出来るように、そのポイントを理解し、習得する。また、書くだけでなく、草書体や旧字体、書写体が読めるようになる。加えて、常用漢字の正しい筆順と部首名も習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1、オリエンテーション（授業内容の説明や持ち物や注意事項の伝達）、鉛筆の持ち方と書くときの姿勢などの確認。自分の名前を各書体で書く。 2、ひらがなの成立と書き方について。ひらがなの字源を知る/楷書体に合うひらがなと行書体に合うひらがなの練習。 3、楷書体について：字形の整え方について/楷書体の基本用筆の練習（基礎編） 4、楷書体について：縦書きの文章の書き方について/楷書体の基本用筆の練習（応用編） 5、楷書体について：横書きの文章の書き方について/楷書体についてのまとめ 6、行書体について：行書体の基本用筆の練習（基礎編） 7、漢字の部分の名称について、常用漢字の筆順について/行書体の基本用筆の練習（応用編） 8、草書体について：草書体を読み書きする/行書体についてのまとめ 9、実用書の書き方について：はがきの表裏の書き方について 10、実用書の書き方について：手紙文の書き方について（文章、用語、書き出し、結びの言葉など） 11、実用書の書き方について：封筒の表裏の書き方について、掲示文の書き方について 12、筆ペンによる実用書の練習 13、筆ペンによる作品制作（練習） 14、筆ペンによる作品制作（清書） 15、まとめとテスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、次回授業の予習。 授業後：授業内に出来なかった箇所の自主練習。 授業前・後に関わらず、字がきれいになるにはとにかく書くことが必須です。自ら課題を見付けて積極的に書いてください。						
授業方法	講義と実技による。						
評価基準と評価方法	平常点20%、課題30%、試験50%						
教科書	「ペン習字の基本」 修文館出版株式会社 「ペン習字ノート」（「ペン習字の基本」準拠） 修文館出版株式会社						
参考書	必要に応じてプリント配布。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（草書）						
担当教員	花田 尊文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	書法基礎（草書）。						
授業の概要	草書の基礎的書法の習得と理解を目指し、「書譜」の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて学習する。						
到達目標	草書書法基礎（旋回、ジグザグ、振子、当り運動 単体、連綿草）。草書体字形認識力の向上。						
授業計画	<p>第1回：諸注意、伝達事項、シラバス配布とその説明、関連参考文献の紹介、演習に必要な用具材についての確認と予告。書法基礎（執筆法、腕法、姿勢、運筆）について解説。</p> <p>第2回：草書とは何か？ その発生と成立の過程について解説。臨書について解説。</p> <p>第3回：書譜について解説。運筆トレーニング後、「書譜」の臨書演習（半紙）に入る。</p> <p>第4回：「書譜」臨書演習（二回目）。</p> <p>第5回：「書譜」臨書演習（二回目）。</p> <p>第6回：VTRによりこれまでの総括と今後への展望。草書の字形を覚える必要性について再確認。「書譜」臨書演習（三回目）。</p> <p>第7回：草書字形一覧表配布（合理的に字形を覚える方法）解説。</p> <p>第8回：「書譜」臨書演習（四回目）。</p> <p>第9回：「書譜」臨書演習（五回目）。</p> <p>第10回：「書譜」臨書演習（六回目）。</p> <p>第11回：「書譜」臨書演習（七回目）、提出。同条幅臨書について予告。</p> <p>第12回：「書譜」条幅臨書演習（一回目）。</p> <p>第13回：「書譜」条幅臨書演習（二回目）。</p> <p>第14回：「書譜」条幅臨書演習（三回目）。</p> <p>第15回：「書譜」条幅臨書演習（四回目）、提出。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に学書に取り組むことを希望する。						
授業方法	臨書演習中心。講義、解説も織りまぜる。						
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%。						
教科書	<p>書名/書譜(中国法書選No. 38)</p> <p>著訳編註名/孫過庭</p> <p>出版社/二玄社</p> <p>ISBN/4544005388</p> <p>必要に応じプリントを配布する。</p>						
参考書	<p>書名/書道の古典(全三冊)</p> <p>著訳編註名/大東文化大学書道研究所</p> <p>出版社/二玄社</p> <p>ISBN/4544014336</p>						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書A						
担当教員	釣 年子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）						
授業の概要	<p>書写、書道についての一般的総合的な基本的授業について解説する。書写、書道教育においても日常生活においても正書体である楷書の重要性は論を待たない。これに鑑み楷書古典名跡の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて楷書書法の習得をめざして学習する。まず、毛筆の扱いに慣れるのが第一段階である。そのために執筆法、腕法、姿勢などの解説を理解した上で実践する。簡単な字例から次第に難易度を上げ習得に導く。楷書書法の再要点である三過折の習得、字形の観察力と書美の鑑賞力の向上を目指して臨書に取り組む。まず、半紙で2字、4字、6字、と書く字数をふやしながら単に一字一字に注目するだけではなく章法にも配慮するよう指導する。</p>						
到達目標	<p>書写、書道の基本的知識、および文字・字体・書体・書風・表現について理解と習得。 楷書書法の基本技法の習得。筆遣いの要点、字形の取り方、章法（文字の大きさ、配字、配列など）について理解習得。 楷書の書美の理解と表現。</p>						
授業計画	<p>第1回：演習に必要な用具用材についての確認と書写、書道のための参考文献の紹介。書写、書道の基本的知識、および文字・字体・書体・書風、表現について略説。 第2回：書写の基礎（執筆法、腕法、姿勢、運筆、三過折、刀法、字形のまとめ方）について解説。 第3回：書写演習（簡単な字例から） 第4回：書写演習（前回の続き清書） 第5回：楷書の歴史と楷書古典名跡（「孔子廟堂碑」「九成宮醴泉銘」など）について解説 第6回：臨書演習（主として唐楷 半紙2字書） 第7回：臨書演習（半紙2, 4字書） 第8回：臨書演習（半紙4, 6字書） 第9回：臨書演習（判紙6字書）VTRによりこれまでの総括と再確認 第10回：臨書演習（清書） 第11回：臨書演習（主として北碑、「張猛龍碑」） 第12回：臨書演習（「張猛龍碑」、「高貞碑」） 第13回：臨書演習（「高貞碑」） 第14回：臨書演習 清書提出 第15回：書の定義、書道教育、書の鑑賞について講義</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に学書に取り組むことを希望する。						
授業方法	実技演習中心、講義解説も織り交ぜる。						
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%						
教科書	<p>書名/九成宮醴泉銘（中国法書選No. 31） 著訳編註名/欧陽詢 出版社/二玄社 ISBN/4454005310 必要に応じプリントを配布する</p>						
参考書	<p>書名/書道の古典（全三冊） 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336</p>						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書A						
担当教員	花田 尊文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）。						
授業の概要	書写、書道についての一般的総合的な基本的教養について解説する。書写、書道教育においても日常生活においても正書体である楷書の重要性は論を待たない。これに鑑み楷書古典名跡の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて楷書書法の習得をめざして学習する。まず、毛筆の扱いに慣れるのが第一段階である。その為に執筆法、腕法、姿勢などの解説を理解した上で実践する。簡単な字例から次第に難易度を上げ習熟に導く。楷書書法の最要点である三過折の習得、字形の観察力と書美の鑑賞力の向上を目指して臨書に取り組む。まず、半紙で2字、4字、6字書と書く字数を増やししながら単に一字一字に注目するだけではなく章法にも配慮するよう指導する。						
到達目標	書写、書道の基本的知識、および文字・字体・書体・書風、表現について理解と習得。 楷書書法の基本技法の習得。筆遣いの要点、字形のとり方、章法（文字の大きさ、配字、配列など）について理解習得。 楷書の書美の理解と表現。						
授業計画	第1回：演習に必要な用具用材についての確認と書写、書道のための参考文献の紹介。書写、書道の基本的知識、および文字・字体・書体・書風、表現について略説。 第2回：書写の基礎（執筆法、腕法、姿勢、運筆、三過折、刀法、字形のまとめ方）について解説。 第3回：書写演習（簡単な字例から）。 第4回：書写演習（前回の続き清書）、提出。 第5回：楷書の歴史と楷書古典名跡（「孔子廟堂碑」「九成宮醴泉銘」など）について解説。 第6回：臨書演習（主として唐楷 半紙2字書）。 第7回：臨書演習（半紙2、4字書）。 第8回：臨書演習（半紙4、6字書）。 第9回：臨書演習（半紙6字書）。VTRによりこれまでの総括と再確認。 第10回：臨書演習、清書提出。 第11回：臨書演習（主として北碑「張猛龍碑」）。 第12回：臨書演習（「張猛龍碑」「高貞碑」）。 第13回：臨書演習（「高貞碑」）。 第14回：臨書演習、清書提出。 第15回：書の定義、書道教育、書の鑑賞について講義。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に学書に取り組むことを希望する。						
授業方法	実技演習中心、講義解説も織りまぜる。						
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%。						
教科書	書名/九成宮醴泉銘(中国法書選No. 31) 著訳編註名/歐陽詢 出版社/二玄社 ISBN/4544005310 必要に応じプリントを配布する。						
参考書	書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336 教科書としても使用するので必ず購入すること。 必要な授業に際して忘れずに持参すること。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書B						
担当教員	釣 年子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「書法の基礎と楷書A」を受け多様な楷書の書美と書法を学習。条幅作品。						
授業の概要	「書法の基礎と楷書A」で未習の楷書古典の臨書演習を中心に講義と解説も織り交ぜて学習する。次に、半紙書きの経験を元に条幅（半切）書きの演習に取り組む。楷書による半切臨書作品の完成を目指す。						
到達目標	臨書の意義と効用についての理解。 楷書書美、その諸相（時代的様式、作者の個性）について理解、書法についても習得。 小楷演習（三過折、字形、章法） 条幅作品揮毫						
授業計画	第1回 「書法の基礎と楷書A」で未習の唐代の楷書古典（褚遂良、顔真卿など）について略説 褚法と顔法 第2回 臨書演習（褚遂良）雁塔聖教序の解説と演習 第3回 臨書演習（褚遂良 顔真卿） 第4回 臨書演習（顔真卿）提出 第5回 楷書の時代別特徴の解説 小楷古典の臨書演習（宣示表または楽毅論）拡大手本による臨書 第6回 臨書演習（魏晉小楷、楽毅論） 第7回 臨書演習（楽毅論） 第8回 臨書演習（魏晉小楷、楽毅論）提出 第9回 楷書書法の応用と展開、小楷演習（美人董氏墓誌、まず書いてみる） 第10回 臨書演習（一字一字の特徴を詳細に原本と比較検討する） 第11回 臨書演習（文字の大きさ、時間行間に注意する）、提出。条幅臨書について予告、解説。 第12回 条幅臨書演習（1）半切の形式解説と撰文 部分練習 第13回 条幅臨書演習（2）部分練習 第14回 条幅臨書演習（3）半切形式にまとめる 落款の解説と演習 第15回 条幅臨書演習（4）清書						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に学書に取り組むことを希望する。						
授業方法	実技演習中心、講義解説も織り交ぜる。						
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%						
教科書	書名/書道の古典（全三冊） 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336 書名/九成宮醜泉銘（中国法書選No. 31） 著訳編註名/欧陽詢 出版社/二玄社 ISBN/4454005310 必要に応じプリントを配布する						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書B						
担当教員	花田 尊文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「書法の基礎と楷書A」を受け多様な楷書の書美と書法を学習。条幅作品。						
授業の概要	「書法の基礎と楷書A」で未習の楷書古典の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて学習する。次に、半紙書きの経験を元に条幅（半切）書きの演習に取り組む。楷書による半切臨書作品の完成を目指す。						
到達目標	臨書の意義と効用について理解。 楷書の書美、その諸相（時代の様式、作者の個性）について理解、書法についても習得。 小楷演習（三過折、字形、章法）。 条幅作品揮毫。						
授業計画	<p>第1回：「書法の基礎と楷書A」で未習の唐代の楷書古典（褚遂良、顔真卿など）について略説。臨書演習に入る。</p> <p>第2回：臨書演習（褚遂良）。</p> <p>第3回：臨書演習（褚遂良、顔真卿）。</p> <p>第4回：臨書演習（顔真卿）、提出。</p> <p>第5回：楷書の特徴別の種類について解説。更に未習の古典について臨書演習（魏晋小楷、楽毅論）。</p> <p>第6回：臨書演習（魏晋小楷）。</p> <p>第7回：臨書演習（楽毅論）。</p> <p>第8回：臨書演習（魏晋小楷、楽毅論）、提出。</p> <p>第9回：楷書書法の応用と展開。小楷演習（美人董氏墓誌、まず書いてみる）。</p> <p>第10回：臨書演習（一字々々の特徴を詳細に原本と比較検討する）。</p> <p>第11回：臨書演習（文字の大きさ、字間行間に注意する）、提出。条幅臨書について予告、解説。</p> <p>第12回：条幅臨書演習（各自選択範囲の手本配布、まず書いてみる）。</p> <p>第13回：条幅臨書演習（一字々々の特徴を詳細に原本と比較検討する）。</p> <p>第14回：条幅臨書演習（文字の大きさ、字間行間にも注意する）。</p> <p>第15回：条幅臨書演習（止め、ハネ、払い、線の太細など細部の表現にも配慮する）、清書提出。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に学書に取り組むことを希望する。						
授業方法	実技演習中心、講義解説も織りまぜる。						
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%。						
教科書	<p>書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336</p> <p>書名/九成宮醜泉銘(中国法書選No. 31) 著訳編註名/欧陽詢 出版社/二玄社 ISBN/4544005310</p> <p>必要に応じプリントを配布する。</p>						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	正しいことばづかい／国語学講読A						
担当教員	村上 敬一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の構造についての基礎的研究						
授業の概要	具体的な場面における日本語の運用能力を充実させたい人のための講義である。現代は、デジタル化された情報が、メディアの枠を超えてやりとりされる時代である。そこで扱われる情報は、ますます高度で幅広いものとなっている。本講義では、このような情報の最終表現のひとつとしての話しことば／書きことばについて、具体的な課題を提示し、解説していく。						
到達目標	「話して伝える」「読んで伝える」「聞いて伝える」「書いて伝える」ことが総合的に機能する、話しことば／書きことばコミュニケーション能力の習得。						
授業計画	第1回 正しい日本語とは ことばのしくみについて 第2回 日本語の音声・音韻① 母音と子音 第3回 日本語の音声・音韻② 音節と音節構造 第4回 日本語の音声・音韻③ アクセントとイントネーション 第5回 日本語の文字表記① 文字の機能と分類 第6回 日本語の文字表記② 漢字、仮名について 第7回 日本語の文字表記③ 現代の表記法について 第8回 日本語の語彙① 語構成と語構造 第9回 日本語の語彙② 語種について 第10回 日本語の語彙③ 語の意味について 第11回 日本語の語彙④ 語源、語史について 第12回 日本語の語彙⑤ 新語、流行語について 第13回 日本語の文章・文体① 文章論について 第14回 日本語の文章・文体② 文体論について 第15回 総論と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って、教科書、プリントを事前に読んでおくこと。 授業後学習：授業後に簡単なレポートを課すことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	出席40%、レポート20%、期末試験40%						
教科書	『図解日本語』沖森卓也ほか3名著、三省堂 ISBN 4-385-36242-4						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	多文化共生論A						
担当教員	辻野 理花						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会と多文化共存						
授業の概要	比較文化にはさまざまな視点から考えていくことができるが、本講義では私たちの足元に存在する多様な文化について着目し、考察していく予定である。文化の多様性というのは、複数の社会の比較という方法を通してだけでなく、1つの社会の中にも存在する。そこで私たちが暮らす日本の社会にみられる多文化的な状況を知り、こうした状況の中での多様な文化との共生について考えていきたい。また比較対象として、日本以外の社会についても見ていく予定である。						
到達目標	身近に存在する文化の多様性について理解を深める						
授業計画	<p>第1回イントロダクション 第2回日本社会における在住外国人の概要① 第3回日本社会における在住外国人の概要② 第4回日本社会における在住外国人の概要③ 第5回グローバル化と日本社会 第6回法的制度 第7回在住外国人と労働① 第8回在住外国人と労働② 第9回在住外国人と労働③ 第10回在住外国人と労働④ 第11回在住外国人と暮らし① 第12回在住外国人と暮らし② 第13回在日外国人と教育① 第14回在日外国人と教育② 第15回まとめ</p> <p>講義の進捗によって、順序や内容を変更することもあります</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	日ごろから時事問題を意識して知る習慣を身につけてください						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	授業中にかいてもらう簡単なレポート、課題、学期末レポート、出席で評価する						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介します。 多文化社会への道 著 駒井洋編（明石書店）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	多文化共生論B						
担当教員	辻野 理花						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ジェンダーの比較文化						
授業の概要	比較文化にはさまざまな視点から考えていくことができる。文化の多様性というのは、複数の社会の比較という方法を通してだけでなく、いつの社会の中にも存在する。本講では、比較の視点で複数の社会の文化をジェンダーをキーワードに考察していく。映像資料も活用しながら、他者の目でもとらえた文化、創りだされるイメージやそれがもたらす影響などについても上記のキーワードを中心にみていく予定である。						
到達目標	文化の多様性について理解を深める						
授業計画	<p>第1回 イントロダクション 第2回 ジェンダーについて① 第3回 ジェンダーについて② 第4回 ジェンダーについて③ 第5回 創られるジェンダーのイメージ① 第6回 創られるジェンダーのイメージ② 第7回 ジェンダーと性別役割分業① 第8回 ジェンダーと性別役割分業② 第9回 ジェンダーと性別役割分業③ 第10回 女性と通過儀礼① 第11回 女性と通過儀礼② 第12回 通過儀礼の多様性 第13回 女性と労働① 第14回 女性と労働② 第15回 まとめ</p> <p>講義の進度によって、順序や内容を変更することもあります</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ視点から、みなさんが生活している社会について考えてみてください						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	授業中にかいてもらう簡単なレポート、学期末レポート、出席で評価する						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	中国書道史						
担当教員	花田 尊文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	中国の書道史						
授業の概要	中国史の時代区分を追いながら書の歴史の変遷を講ずる、併せて政治・経済・思想や文化の事情を知り、歴史上の人物像についても解説しより深い理解を目指したい。テキストに沿って進行、より精度の高い文字資料の映像や実物資料の提示と解説も行う。						
到達目標	漢字の発生からその変遷進化、書体の完成、書芸術の発生展開など、中国の書道史の基本的事項について理解習得する。						
授業計画	<p>第1回：諸注意、伝達事項、シラバス配布とその説明、工具書や関連参考文献の紹介。 中国書道史の導入として文字の始まり、つまり漢字創成の伝説と実際について解説。</p> <p>第2回：殷、西周。(甲骨文、金文、列国体、石鼓文)</p> <p>第3回：西周、東周。(列国体、石鼓文、簡牘書、帛書、篆書)</p> <p>第4回：秦、前漢。(篆書、簡牘書、帛書、隸書)</p> <p>第5回：後漢。(八分隸、漢碑)</p> <p>第6回：三国、西晋。(残紙、楷書の定立、書人の登場)</p> <p>第7回：東晋。(王羲之・王献之、書芸術の出現)</p> <p>第8回：南北朝。(南朝＝羲之の継承、北朝＝北碑、龍門二十品など)</p> <p>第9回：隋、唐。(墓誌銘、楷書の完成、初唐の三大家)</p> <p>第10回：唐。(中唐・晩唐の書、顔真卿)</p> <p>第11回：宋。(淳化閣帖、北宋の四大家、南宋・金の書)</p> <p>第12回：元、明。(趙孟頫・復古主義、元末明初の書人)</p> <p>第13回：明。(文人主義、中期の書道興隆、帖学、董其昌、明末ロマン主義)</p> <p>第14回：清。(明末清初の書、帖学派・碑学派)</p> <p>第15回：清。(揚州八怪、金石学、篆隸の書、篆刻)</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業は中国史の時代区分を追いながら進める。よって、中学高校レベルの中国史の基礎教養を必要とするのでその復習をしておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポートの提出50%。平常点50%。						
教科書	<p>書名/中国書道史年表 著訳編註名/玉村霽山 出版社/二玄社 ISBN/4544012414 必要に応じプリントを配布する。</p>						
参考書	<p>書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336</p>						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	地域文化論A						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の祭礼と芸能						
授業の概要	この講義では、地域文化を知るためのアプローチのひとつとして、文化人類学のフィールドワークの手法を紹介する。それを踏まえ、日本の地域文化の事例をいくつか取り上げ、その歴史的、文化的、および社会的な側面について概観する。なお、講義はわかりやすいように、適宜、ビデオ映像やアニメーションなどを用いながら進めていく。今年度は「祭礼（お祭り）」を中心として、日本の歴史と芸能について考える。						
到達目標	今も各地に残る「ふるさとの芸能」や「お祭り」の意味と意義を知るとともに、その歴史的な背景を学ぶ。						
授業計画	第1回 古代の祭礼1 神と祭礼 神楽・巫女舞 第2回 古代の祭礼2 仏と祭礼 精霊会・来迎会 第3回 中世の祭礼1 中央から地方へ 第4回 中世の祭礼2 民衆の参加 第5回 中世の祭礼3 風流と盆踊り 第6回 中世から近世の祭礼1 祇園祭1 第7回 中世から近世の祭礼2 祇園祭2 第8回 中世から近世の祭礼3 芸能の民 いたこ・絵解き 第9回 中世から近世の祭礼4 芸能の民 平曲・幸若舞 第10回 中世から近世の祭礼5 猿楽から能へ 黒川能 第11回 近世の祭礼1 都市と芸能 第12回 近世の祭礼2 都市から地方へ 人形劇の系譜 第13回 近世の祭礼3 都市から地方へ 歌舞伎の系譜 第14回 近世の祭礼4 祝福芸 お笑いの系譜 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のAVセンターにあるDVDで学ぶ必要がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	プリントを配付						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	地域文化論B						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ミュージカルと日本演劇						
授業の概要	地域文化論Aに続いて「地域文化」について考える。私たちにとって身近な地域文化を通じて、地域文化・社会のあり方を考えていきたい。日本の事例のほか、海外の事例についても可能な限り取り上げて、多様な意味をもつ地域文化を考えてみたい。適宜、ビデオ映像などを用いながら授業をすすめていく予定である。今年度は特に「ミュージカル」を取り上げ、イギリス・アメリカの現代文化が、どのように日本文化に影響を与えているかを考える。						
到達目標	ミュージカルという演劇の歴史、および日本への影響を学ぶ。						
授業計画	第1回 日本の近代演劇史の概観 第2回 「新劇」としての外国演劇 第3回 第二次大戦後の演劇史とアメリカ 第4回 オペラからミュージカルへミュージカルの誕生ー 第5回 「オクラホマ」から「サウンド・オブ・ミュージック」 第6回 ロジャースとハマースタイン（一九五〇年代） 第7回 「ウエスト・サイド物語」から「マイ・フェア・レディ」 第8回 ハロルド・プリンスとジェームス・ロビンソンとソンドハイムの時代（一九六〇年代） 第9回 「コーラスライン」「キャッツ」「オペラ座の怪人」ロンドンミュージカル 第10回 アンドリュー・ロイド・ウェバー（一九七〇・八〇年代） 第11回 「ライオンキング」から「レント」 第12回 ディズニーミュージカルとラーソン（一九九〇年代以降） 第13回 日本でのミュージカルの上演 第14回 現在のミュージカル・他の演劇との関係 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のAVセンターにあるDVDで舞台映像を見て学ぶ必要がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	プリントを配付						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日韓対照言語学A／日朝対照言語学A						
担当教員	金 美善						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日韓対照言語学						
授業の概要	朝鮮語は日本語と統語構造が似ている類似点の多い言語とされますが、音韻構造や表現、言語行動の面では相違点の多い言語でもあります。この授業では、朝鮮語の構造を通して日本語を客観的に観察する力を養っていきます。前期では、発音構造、文法を中心に朝鮮語と日本語の類似点と相違点を対照分析します。						
到達目標	基礎的な韓国語の文の構造を知ること为目标とします						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：朝鮮語ってどんな言語？ 2. 朝鮮語の母音、日本語の母音 3. 朝鮮語の子音、日本語の子音 4. 朝鮮語の音節構造、日本語の音節構造 5. 朝鮮語のパソコン入力 6. 朝鮮語の名詞文、日本語の名詞文 1 7. 朝鮮語の名詞文、日本語の名詞文 2 8. 朝鮮語の用言文、日本語の用言文 1 9. 朝鮮語の用言文、日本語の用言文 2 10. いろいろな言語の数え方 11. 朝鮮語の敬語体系、日本語の敬語体系 12. 調べてみよう、日本語と他言語の類似点・相違点 1 13. 調べてみよう、日本語と他言語の類似点・相違点 2 14. 予備日 15. 期末試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の内容をまとめて提出する課題があります。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席、平常点、レポート						
教科書	プリントを用意します						
参考書	韓日辞書						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日韓対照言語学B／日朝対照言語学B						
担当教員	金 美善						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日韓対照言語学						
授業の概要	朝鮮語は日本語と統語構造が似ている類似点の多い言語とされますが、音韻構造や表現、言語行動の面では相違点の多い言語でもあります。この授業では、日本語と朝鮮語の類似点や相違点について、朝鮮語の構造を具体的に学習しながら両言語の対照を行います。具体的には、名詞文、名詞文の否定と尊敬、用言文、数詞、疑問文、尊敬表現、文体などについて考えます。						
到達目標	韓国語のいろんな文の構造を知り、辞書を使って簡単な文の内容が翻訳できることを目標とします。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：朝鮮語の構造について 2. 朝鮮語の名詞文、日本語の名詞文 3. 朝鮮語否定表現、日本語の否定表現 4. 朝鮮語の尊敬表現、尊敬表現 5. 朝鮮語の用言文、日本語の用言文 6. 朝鮮語の数詞、日本語の数詞 7. 朝鮮語の疑問文、日本語の疑問文 8. 朝鮮語の尊敬表現、日本語の尊敬表現 9. 朝鮮語の文体、日本語の文体 10. 朝鮮語と日本語の喜怒哀楽の言語表現 1 11. 朝鮮語と日本語の喜怒哀楽の言語表現 2 10. 朝鮮語と日本語の親疎関係の言語表現 13. 調べてみよう、日本語と朝鮮語の類似点・相違点 1 14. 調べてみよう、日本語と朝鮮語の類似点・相違点 2 15. 調べてみよう、日本語と朝鮮語の類似点・相違点 3 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の内容をまとめて提出する課題があります。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席、平常点、レポート						
教科書	プリントを用意します						
参考書	韓日辞書						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学A						
担当教員	古川 典代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と中国語の対照研究						
授業の概要	日本語の中に見られる中国語の影響や、中国語への日本語の逆輸入などを把握し、同時代の2言語を比較対照しながら日本語を客観的に捉える視点を育成する。また、日本語教育の観点から、学習者の母語（中国語）を把握することで、学習者の母語の干渉についても理解を深める。						
到達目標	中国語の特性を認識し、日中両言語間の類似性と相違性を把握する。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①中国語の特性 ②日本語に見られる中国語の影響 ③日中同形異義語 ④中国における日本語の誤用例 ⑤発音面における難易度 ⑥日中流行語・新語比較 ⑦日中カバーソング事情 ⑧中国人が日本語学習時に直面する問題点 ⑨日中文化差異による言語干渉 ⑩日中映画ドラマ字幕翻訳 ⑪日中翻訳トレーニング ⑫日中通訳トレーニング ⑬日中同時通訳事情 ⑭グループごとにテーマを決めてレポートをまとめる ⑮発表 						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容について、感想や疑問点を提出。次回時に質問に対する回答などのコメントを発表する。						
授業方法	講義（グループ発表を含む）						
評価基準と評価方法	日常点50 発表20 レポート30						
教科書	毎回プリントを配布						
参考書	『日中対照言語学研究論文集』大河内康憲 くろしお出版						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学B						
担当教員	古川 典代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と中国語の対照研究						
授業の概要	前期で日中対照言語学の概要を把握したので、後期は代表論文を通して日中対照言語学の研究状況を把握する。また、日本語教育の観点から、学習者の母語（中国語）干渉について誤用例分析を行う。						
到達目標	日中対照言語学Aの基礎のもと、中国語母語話者への日本語教育時における母語の干渉について理解し、教授効果をあげる工夫ができるようにする。						
授業計画	①日中同形語ほか（文法書より） ②日中同形語ほか（文法書より） ③論文「日本語と中国語の同形語」 ④論文「日本語と中国語の同形語」 ⑤論文「日本語名詞のトコロ（空間）性—中国語との関連で—」 ⑥論文「日本語名詞のトコロ（空間）性—中国語との関連で—」 ⑦論文（学生の興味による） ⑧論文（学生の興味による） ⑨論文（学生の興味による） ⑩グループディスカッション ⑪誤用分析 ⑫誤用分析 ⑬誤用分析 ⑭グループごとにテーマを決めてレポートをまとめる ⑮発表						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容について、感想や疑問点を提出。次回時に質問に対する回答などのコメントを発表する。						
授業方法	講義（グループ発表を含む）						
評価基準と評価方法	日常点50 発表20 レポート30						
教科書	毎回プリントを配布						
参考書	『日中対照言語学研究論文集』大河内康憲 くろしお出版						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日英対照言語学A						
担当教員	里井 真理子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と英語の対照研究						
授業の概要	日本語を英語に、英語を日本語に言い換える際に「これって何て言えばいいの。」と疑問に思ったりしたことはありませんか。今まで学んできた英語表現が理解してもらえなかったりした経験はありませんか。これは日本語と英語の違いによるものなのです。授業では、両者の歴史や文法などを学びながら「日本語らしさ」「英語らしさ」について考えていきます。						
到達目標	日本語と英語の対照についての基本的な事柄を学ぶことができます。						
授業計画	第1回 ガイダンス 英語と日本語の違い 第2回 言語の歴史 (1) 英語編 第3回 言語の歴史 (2) 日本語編 第4回 言語の語彙 (1) 英語編 第5回 言語の語彙 (2) 日本語編 第6回 英語と日本語の語順 第7回 言語の文構造 (1) 英語編 第8回 言語の文構造 (2) 日本語編 第9回 言語の音韻体系 (1) 英語編 第10回 言語の音韻体系 (2) 日本語編 第11回 英語と日本語の文字体系 第12回 丁寧表現 英語編 第13回 丁寧表現 日本語編 第14回 言語の方言 (1) 英語編 第15回 言語の方言 (2) 日本語編						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：配布プリントを読んできてください。 授業後学習：授業内容を簡単にまとめておいてください。復習テストの勉強にもなります。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業時の活動 (50%) + 小テスト (30%) + レポート (20%)						
教科書	適宜プリント配布						
参考書	なし						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日英対照言語学B						
担当教員	里井 真理子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と英語の対照研究						
授業の概要	日本語を英語に、英語を日本語に言い換える際に「これって何て言えばいいの。」と疑問に思ったりしたことはありませんか。今まで学んできた英語表現が理解してもらえなかったりした経験はありませんか。これは日本語と英語の違いによるものなのです。授業では、両者の歴史や文法などを学びながら「日本語らしさ」「英語らしさ」について考えていきます。						
到達目標	日本語と英語の対照についての基本的な事柄を学ぶことができます。						
授業計画	第1回 言語と社会階級 (1) 英語編 第2回 言語の社会階級 (2) 日本語編 第3回 人種・民族による語差 (1) 英語編 第4回 人種・民族による語差 (2) 日本語編 第5回 性別による語差 (1) 英語編 第6回 性別による語差 (2) 日本語編 第7回 年齢による語差 (1) 英語編 第8回 年齢による語差 (2) 日本語編 第9回 言語接触 (1) 英語編 第10回 言語接触 (2) 日本語編 第11回 非言語伝達 (1) 英語編 第12回 非言語伝達 (2) 日本語編 第13回 言語と文化 (1) 英語編 第14回 言語と文化 (2) 日本語編 第15回 総まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：配布プリントを読んできてください。 授業後学習：授業内容を簡単にまとめておいてください。復習テストの勉強にもなります。						
授業方法	講義、実技						
評価基準と評価方法	授業時の活動 (50%) + 小テスト (30%) + レポート (20%)						
教科書	適宜プリント配布						
参考書	なし						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育入門						
担当教員	村上 敬一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する外国語としての日本語教育と、異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深める						
授業の概要	外国語としての日本語教育を実践的に学び、日本語を外国語として学ぶ人々への理解を深めるなかで、日本語教育の基礎的な知識を学ぶ。日本語教育を通じて、自身の身近な問題から、グローバル化した社会問題まで、多角的な視野と思考力を身に付けるためのトレーニングを行なう。講義だけでなく、異文化間コミュニケーション、多文化共生の実践として、留学生との合同授業を行なうなど、実体験を通じた学習形態も取り入れる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語教師に必要な基礎的技能、知識を身につける。 2. 留学生との交流を通じて、異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深める。 3. 日本語教育の歴史と現状をふまえ、世界のなかの日本語について、見識を深める。 4. 日本語教育に関わる時事的な事柄について見聞を広める。 						
授業計画	<p>第1回 世界のなかの日本語① インTRODクシヨン</p> <p>第2回 世界のなかの日本語② 日本語教育の現状・国内</p> <p>第3回 世界のなかの日本語③ 日本語教育の現状・海外(1)</p> <p>第4回 世界のなかの日本語④ 日本語教育の現状・海外(2)</p> <p>第5回 日本語教師の現場① 国内編</p> <p>第6回 日本語教師の現場② 海外編</p> <p>第7回 日本語教育の現状と問題点① 国内編(1)</p> <p>第8回 日本語教育の問題点② 国内編(2)</p> <p>第9回 日本語教育の問題点③ 海外編</p> <p>第10回 日本語能力試験の実態</p> <p>第11回 日本語教育能力検定の実態</p> <p>第12回 日本語教育スタンダード① 言語構造能力</p> <p>第13回 日本語教育スタンダード② 社会言語能力</p> <p>第14回 日本語教育の歴史①</p> <p>第15回 日本語教育の歴史②</p> <p>第16回 総論</p> <p>※ 留学生との合同授業に振り替える場合がある。 そのときは、改訂したものを通知する。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業前学習：授業計画に従って、プリントを事前に読んでおくこと。</p> <p>授業後学習：授業後に簡単なレポートを課すことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席(小レポート含む)50%、期末レポート50%						
教科書	プリントを配付する						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育入門						
担当教員	村上 敬一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する外国語としての日本語教育と、異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深める						
授業の概要	外国語としての日本語教育を実践的に学び、日本語を外国語として学ぶ人々への理解を深めるなかで、日本語教育の基礎的な知識を学ぶ。日本語教育を通じて、自身の身近な問題から、グローバル化した社会問題まで、多角的な視野と思考力を身に付けるためのトレーニングを行なう。講義だけでなく、異文化間コミュニケーション、多文化共生の実践として、留学生との合同授業を行なうなど、実体験を通じた学習形態も取り入れる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語教師に必要な基礎的技能、知識を身につける。 2. 留学生との交流を通じて、異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深める。 3. 日本語教育の歴史と現状をふまえ、世界のなかの日本語について、見識を深める。 4. 日本語教育に関わる時事的な事柄について見聞を広める。 						
授業計画	<p>第1回 世界のなかの日本語① インTRODクシヨン</p> <p>第2回 世界のなかの日本語② 日本語教育の現状・国内</p> <p>第3回 世界のなかの日本語③ 日本語教育の現状・海外（1）</p> <p>第4回 世界のなかの日本語④ 日本語教育の現状・海外（2）</p> <p>第5回 日本語教師の現場① 国内編</p> <p>第6回 日本語教師の現場② 海外編</p> <p>第7回 日本語教育の現状と問題点① 国内編（1）</p> <p>第8回 日本語教育の問題点② 国内編（2）</p> <p>第9回 日本語教育の問題点③ 海外編</p> <p>第10回 日本語能力試験の実態</p> <p>第11回 日本語教育能力検定の実態</p> <p>第12回 日本語教育スタンダード① 言語構造能力</p> <p>第13回 日本語教育スタンダード② 社会言語能力</p> <p>第14回 日本語教育の歴史①</p> <p>第15回 日本語教育の歴史②</p> <p>第16回 総論</p> <p>※ 留学生との合同授業に振り替える場合がある。 そのときは、改訂したものを通知する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：授業計画に従って、プリントを事前に読んでおくこと。</p> <p>授業後学習：授業後に簡単なレポートを課すことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席（小レポート含む）50%、期末レポート50%						
教科書	プリントを配付する						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎A						
担当教員	河野 美抄子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として非日本語母語話者に教えるということはどういうことか。日本語学習者のニーズや背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識を全体的に概観する。教育現場ではどのような指導がなされているのかを知り、外国語として日本語を捉えることの面白さと重要性を考えていく。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されている。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付ける。 また、交流授業を通して異文化コミュニケーションについて学ぶ。						
授業計画	第1回：日本語教育入門 第2回：日本語教育概説 1 第3回：日本語教育概説 2 第4回：コースデザイン 第5回：シラバス 第6回：外国語教授法 1 オーディオ・リンガル・メソッド 第7回：外国語教授法 2 TPR 第8回：外国語教授法 3 コミュニカティブ・アプローチ 第9回：外国語教授法 4 トイレント・ウェイ 第10回：外国語教授法 5 OPI 第11回：外国語教授法 6 ナチュラル・アプローチ 第12回：日本語のテスト 第13回：評価法（テストの作り方） 第14回：交流授業 第15回：まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	テキストや資料で前回の復習をしておくが良い。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40% 欠席については減点することがある。						
教科書	改定新版 日本語教師養成シリーズ5「日本語教授法」「日本語教育法・実技（実習）」東京法令出版 監修 佐治圭三 真田信治						
参考書	『みんなの日本語Ⅰ』『みんなの日本語Ⅱ』スリーエーネットワーク						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎A						
担当教員	山極 美奈子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識についても学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法・コースデザインなどについて述べる。						
到達目標	日本語教育の基礎知識を身につける						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：日本語教育概説①（日本語教育界の現状） 第3回：日本語教育概説②（日本語学習者について） 第4回：日本語教育概説③（日本語教師について） 第5回：コースデザイン①（ニーズ分析） 第6回：コースデザイン②（シラバス） 第7回：教授法①（文法訳読法・オーラルメソッド） 第8回：教授法②（アーミーメソッド・AL法） 第9回：教授法③（TPR・サイレントウェイ） 第10回：教授法④（サジェストベディア・CLL） 第11回：教授法⑤（コミュニケーションアプローチ） 第12回：前期のまとめ 第13回：アジアプログラム合同授業（日程変更の可能性あり） 第14回：前期試験 第15回：前期試験解答解説						
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	出席は75%以上で評価対象とする。課題・試験などの総合評価とする。評価配分は授業態度（授業への参加度）50%、試験50%とする。						
教科書	日本語教師養成シリーズ5 日本語教授法」監修 佐治圭三・真田信治 東京法令出版 2009年初版2刷発行 ISBN978-4-8090-6240-7						
参考書	「日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド」ヒューマンアカデミー著 ISBN978-4-7981-1788-1						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎B						
担当教員	河野 美抄子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育の実践的な知識を身に付ける。						
授業の概要	日本語を外国語として非日本語母語話者に教えるということはどういうことか。日本語学習者のニーズや背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識を全体的に概観する。主に教材を通し、レベルや技能別の具体的な指導法について学ぶ。また、国語教育とは異なる中級者、上級者への指導と日本語教育のあり方を考えていく。						
到達目標	教科書や教材のあり方、使い方を学び、学習者に合った指導とはどのようなことかを具体的に理解する。						
授業計画	第1回：日本語学習者について 第2回：教科書研究 1 第3回：教科書研究 2 第4回：教科書と教材・教具について 第5回：「聞く」「話す」指導法 1 第6回：「聞く」「話す」指導法 2 第7回：「聞く」「話す」指導法 3 第8回：「読む」「書く」指導法 1 第9回：「読む」「書く」指導法 2 第10回：「読む」「書く」指導法 3 第11回：初級の指導について 第12回：中級の指導について 第13回：上級の指導について 第14回：中級・上級の指導法 まとめ 第15回：技能別指導法 まとめ 及び 到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	テキストや資料で前回の復習をしておくが良い。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40% なお、欠席は減点することがある。						
教科書	改定新版 日本語教師養成シリーズ5「日本語教授法」「日本語教育法・実技（実習）」東京法令出版 監修 佐治圭三 真田信治						
参考書	『みんなの日本語Ⅰ』『みんなの日本語Ⅱ』スリーエーネットワーク						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎B						
担当教員	山極 美奈子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。具体的には、言語と教育について「授業の計画と実施」という視点から考察、日本語教育におけるコミュニケーション教育や異文化理解と心理について学んだ後、言語習得と発達について考えていきたい。さまざまな背景をもつ学習者、年少者への日本語教育、また多様化する教材と教材分析などが主な項目となる。						
到達目標	日本語教育の基礎知識を身につける						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：言語教育①（授業計画） 第3回：言語教育②（教案の書き方） 第4回：教材・教具①（教材について） 第5回：教材・教具②（教材分析について） 第6回：教材・教具③（教材分析発表準備） 第7回：教材・教具④（教材分析発表） 第8回：評価法①（評価の種類） 第9回：評価法②（テストの作り方） 第10回：誤用分析 第11回：目的・対象別日本語教育法①（留学生・就学生） 第12回：目的・対象別日本語教育法②（レベル別） 第13回：後期のまとめ 第14回：後期試験 第15回：後期試験解答解説						
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	出席は75%以上で評価対象とする。課題・試験などの総合評価とする。評価配分は授業態度（授業への参加度）50%、試験50%とする。						
教科書	日本語教師養成シリーズ5 日本語教授法」監修 佐治圭三・真田信治 東京法令出版 2009年初版2刷発行 ISBN978-4-8090-6240-7						
参考書	「日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド」ヒューマンアカデミー著 ISBN978-4-7981-1788-1						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語史A						
担当教員	吉井 健						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の史的変遷を学ぶ。						
授業の概要	日本語の歴史を知ることは、現代語で起こっているさまざまな現象を理解する際にも有益である。ことばと社会の関わりを考える上でも、基礎的な知識となる。この授業では、各時代の資料を見ることに重点を置く。表記や文体の変遷を主に取り上げるが、音韻や文法・語彙の問題にも触れたい。そうして各時代の資料の特徴を把握した上で、いくつかのテーマに沿って通時的に見ていく。						
到達目標	日本語の各時代の主な資料の特徴を知る。 どのような経緯で変化が起こったのか考え、現代語の研究あるいは古典文学研究にも応用できる力を身につける。						
授業計画	第1回 時代区分 第2回 文章文体の変遷 1 上代① 第3回 文章文体の変遷 1 上代② 第4回 上代特殊仮名遣 第5回 (小テスト) 漢文訓読① 第6回 漢文訓読② 第7回 文章文体の変遷 2 中古① 第8回 文章文体の変遷 2 中古② 第9回 文章文体の変遷 3 中世・近世 第10回 文章文体の変遷 5 近代 第11回 (小テスト) 語彙の変遷① 第12回 語彙の変遷②、辞書 第13回 指示語 第14回 人の呼称 第15回 (総復習テスト)						
授業外における学習(準備学習の内容)	準備は特に必要ないが、紹介した古典文学や記録を自ら見るようにしてほしい。 小テストを行い、復習の助けにする。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト+総復習テスト70% 平常点30%						
教科書	プリント配布						
参考書	山口仲実『日本語の古典』(岩波新書) ISBN978-4-00-431287-1						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語史B						
担当教員	吉井 健						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の史的変遷を学ぶ。						
授業の概要	日本語の歴史を知ることは、現代語で起こっているさまざまな現象を理解する際にも有益である。ことばと社会の関わりを考える上でも、基礎的な知識となる。この授業では、文法的な変遷に関するテーマを、いくつか選んで見てゆく。						
到達目標	日本語の各時代の主な資料の特徴を知る。 どのような経緯で変化が起こったのか考え、現代語の研究あるいは古典文学研究にも応用できる力を身につける。						
授業計画	第1回 乱れと変化 第2回 活用形のはたらきと活用の変遷 第3回 準体句 第4回 連体形・終止形の同一化 第5回 二段活用的一段化 第6回 (小テスト) 係り結びとその崩壊① 第7回 係り結びとその崩壊② 第8回 格の明示化 第9回 ヴォイス 第10回 テンス・アスペクト 第11回 モダリティ 第12回 (小テスト) 敬語① 第13回 敬語② 第14回 条件表現 第15回 (総復習テスト)						
授業外における学習(準備学習の内容)	高校までに習った古典文法の基本的知識を復習しておいてほしい(特に品詞のはたらき、活用)。復習を必ず行い、理解を定着させるように努めてほしい。 小テストを行い、復習の助けにする。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト+総復習テスト70% 平常点30%						
教科書	プリント配布						
参考書	高山善行・青木博史編『ガイドブック日本語文法史』(ひつじ書房) ISBN978-4-89476-489-7						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語の中にある規則性を発見し、ことばへの感心を引き出す。また、コードスイッチングなどのことばの切り換えや、ことばの変化(乱れ)にも触れて、コミュニケーションの問題についても考える。できるだけ学生の作業やディスカッションを通じて、日本語の文法のごく基礎的な知識が身につくよう配慮する。						
到達目標	毎日使っていることばに関心を持ち、それを対象として考察する入り口に立つこと。						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 図書館活用の方法 第3回 ~頭・~匹、~本 — ものの数え方 第4回 ~と、~といっしょに — 動詞と文型 第5回 愛す人・愛する人 — 動詞の活用とその変化 第6回 取り組み・活動 — 動詞と名詞 第7回 うれしい・悲しい — 形容詞と感情 第8回 飛びます・痛いです — 動詞・形容詞とデス・マス 第9回 動詞・形容詞の問題まとめ 第10回 あなた — 人の呼称1 第11回 人が心配してるのに — 人の呼称2 第12回 ここでお待ちしてください。 — 敬語 第13回 あすお目にかかります。 — ことばの選択・コードスイッチング 第14回 コミュニケーションの問題まとめ 第15回 試験・まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	講義とグループ発表						
評価基準と評価方法	試験40% 平常点60%						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語入門A						
担当教員	田中 まき						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語の中にある規則性を発見し、ことばへの感心を引き出す。また、コードスイッチングなどのことばの切り換えや、ことばの変化(乱れ)にも触れて、コミュニケーションの問題についても考える。できるだけ学生の作業やディスカッションを通じて、日本語の文法のごく基礎的な知識が身につくよう配慮する。						
到達目標	毎日使っていることばに関心を持ち、それを対象として考察する入り口に立つこと。						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 図書館活用の方法 第3回 ~頭・~匹、~本 — ものの数え方 第4回 ~と、~といっしょに — 動詞と文型 第5回 愛す人・愛する人 — 動詞の活用とその変化 第6回 取り組み・活動 — 動詞と名詞 第7回 うれしい・悲しい — 形容詞と感情 第8回 飛びます・痛いです — 動詞・形容詞とデス・マス 第9回 動詞・形容詞の問題まとめ 第10回 あなた — 人の呼称1 第11回 人が心配してるのに — 人の呼称2 第12回 ここでお待ちしてください。 — 敬語 第13回 あすお目にかかります。 — ことばの選択・コードスイッチング 第14回 コミュニケーションの問題まとめ 第15回 試験・まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	講義とグループ発表						
評価基準と評価方法	試験40% 平常点60%						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門A						
担当教員	吉井 健						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語の中にある規則性を発見し、ことばへの感心を引き出す。また、コードスイッチングなどのことばの切り換えや、ことばの変化(乱れ)にも触れて、コミュニケーションの問題についても考える。できるだけ学生の作業やディスカッションを通じて、日本語の文法のごく基礎的な知識が身につくよう配慮する。						
到達目標	毎日使っていることばに関心を持ち、それを対象として考察する入り口に立つこと。						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 図書館活用の方法 第3回 ~頭・~匹、~本 — ものの数え方 第4回 ~と、~といっしょに — 動詞と文型 第5回 愛す人・愛する人 — 動詞の活用とその変化 第6回 取り組み・活動 — 動詞と名詞 第7回 うれしい・悲しい — 形容詞と感情 第8回 飛びます・痛いです — 動詞・形容詞とデス・マス 第9回 動詞・形容詞の問題まとめ 第10回 あなた — 人の呼称1 第11回 人が心配してるのに — 人の呼称2 第12回 ここでお待ちしてください。 — 敬語 第13回 あすお目にかかります。 — ことばの選択・コードスイッチング 第14回 コミュニケーションの問題まとめ 第15回 試験・まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	講義とグループ発表						
評価基準と評価方法	試験40% 平常点60%						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文章によって伝達する方法や型について考える。						
授業の概要	文章を書くことは、大学の勉学に欠かせないことであり、かつ、社会に出ても役立つ能力である。この授業では文芸的な文章ではなく、あらたまったメールや手紙などの表現から、文章で伝えるにはどういう配慮が必要かを考える。さらにその中で〈依頼〉〈感謝〉などいくつかのコミュニケーション上用いられる表現を分析し、さまざまな表現からパターンを整理する方法についても考える。						
到達目標	文章によって対象をとらえ、自身の考えをまとめ、受け手に配慮しながら伝達する能力を身につけることをめざす。また〈依頼〉〈感謝〉など、いくつかのコミュニケーション上用いられる表現を分析し、さまざまな表現からパターン(型)を整理する方法を知る。						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 トレーニング2 レストランのメニュー 第3回 トレーニング2 レストランのメニュー つづき 第4回 トレーニング4 注意書きやサービス案内 第5回 トレーニング7 わかりやすいマニュアル 第6回 トレーニング8 場所や交通の案内 第7回 前半のまとめ わかりやすい提示の仕方 第8回 トレーニング1 お知らせのメール 第9回 トレーニング5 お願いのメール 第10回 メールの書き方のまとめ(依頼・感謝の表し方) 第11回 トレーニング10 ニュースレターを作る 第12回 トレーニング10 ニュースレターを作る つづき 第13回 トレーニング13 日本語弱者のことを考えて書く 第14回 後半のまとめ 文章の基礎・配慮のある文章 第15回 試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。文章作成の課題など課題を出すことがある。						
授業方法	講義とグループ発表						
評価基準と評価方法	試験40% 平常点60%						
教科書	野田尚史・守口稔『日本語を書くトレーニング』(ひつじ書房) ISBN4-89476-177-7						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門B						
担当教員	田中 まき						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文章によって伝達する方法や型について考える。						
授業の概要	文章を書くことは、大学の勉学に欠かせないことであり、かつ、社会に出ても役立つ能力である。この授業では文芸的な文章ではなく、あらたまったメールや手紙などの表現から、文章で伝えるにはどういう配慮が必要かを考える。さらにその中で〈依頼〉〈感謝〉などいくつかのコミュニケーション上用いられる表現を分析し、さまざまな表現からパターンを整理する方法についても考える。						
到達目標	文章によって対象をとらえ、自身の考えをまとめ、受け手に配慮しながら伝達する能力を身につけることをめざす。また〈依頼〉〈感謝〉など、いくつかのコミュニケーション上用いられる表現を分析し、さまざまな表現からパターン(型)を整理する方法を知る。						
授業計画	<p>テキストの「トレーニング」を使いながら、実際に文章を書くことを通じて学ぶ。</p> <p>第1回 インTRODakション 第2回 トレーニング2 レストランのメニュー 第3回 トレーニング2 レストランのメニュー つづき 第4回 トレーニング4 注意書きやサービス案内 第5回 トレーニング7 わかりやすいマニュアル 第6回 トレーニング8 場所や交通の案内 第7回 前半のまとめ わかりやすい提示の仕方 第8回 トレーニング1 お知らせのメール 第9回 トレーニング5 お願いのメール 第10回 メールのお書き方のまとめ(依頼・感謝の表し方) 第11回 トレーニング10 ニュースレターを作る 第12回 トレーニング10 ニュースレターを作る つづき 第13回 トレーニング13 日本語弱者のことを考えて書く 第14回 後半のまとめ 文章の基礎・配慮のある文章 第15回 試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。文章作成の課題など課題を出すことがある。						
授業方法	講義とグループ発表						
評価基準と評価方法	試験40% 平常点60%						
教科書	野田尚史・守口稔『日本語を書くトレーニング』(ひつじ書房) ISBN4-89476-177-7						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門B						
担当教員	吉井 健						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文章によって伝達する方法や型について考える。						
授業の概要	文章を書くことは、大学の勉学に欠かせないことであり、かつ、社会に出ても役立つ能力である。この授業では文芸的な文章ではなく、あらたまったメールや手紙などの表現から、文章で伝えるにはどういう配慮が必要かを考える。さらにその中で〈依頼〉〈感謝〉などいくつかのコミュニケーション上用いられる表現を分析し、さまざまな表現からパターンを整理する方法についても考える。						
到達目標	文章によって対象をとらえ、自身の考えをまとめ、受け手に配慮しながら伝達する能力を身につけることをめざす。また〈依頼〉〈感謝〉など、いくつかのコミュニケーション上用いられる表現を分析し、さまざまな表現からパターン(型)を整理する方法を知る。						
授業計画	<p>テキストの「トレーニング」を使いながら、実際に文章を書くことを通じて学ぶ。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 トレーニング2 レストランのメニュー 第3回 トレーニング2 レストランのメニュー つづき 第4回 トレーニング4 注意書きやサービス案内 第5回 トレーニング7 わかりやすいマニュアル 第6回 トレーニング8 場所や交通の案内 第7回 前半のまとめ わかりやすい提示の仕方 第8回 トレーニング1 お知らせのメール 第9回 トレーニング5 お願いのメール 第10回 メールの書き方のまとめ(依頼・感謝の表し方) 第11回 トレーニング10 ニュースレターを作る 第12回 トレーニング10 ニュースレターを作る つづき 第13回 トレーニング13 日本語弱者のことを考えて書く 第14回 後半のまとめ 文章の基礎・配慮のある文章 第15回 試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。文章作成の課題など課題を出すことがある。						
授業方法	講義とグループ発表						
評価基準と評価方法	試験40% 平常点60%						
教科書	野田尚史・守口稔『日本語を書くトレーニング』(ひつじ書房) ISBN4-89476-177-7						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本書道史						
担当教員	室之園 裕美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	今日、当たり前のように使っている漢字や仮名であるが、それらは我々日本人が世界に誇るべき文化遺産である。漢字や仮名について知ることは、日本の文化を知ることであり、その起源から知ることで我々の祖先の想像力の豊かさや素晴らしさ、日本人としての誇りを感じられるようになることがテーマである。						
授業の概要	日本書道史を時代区分し、各時代の時代背景・文化・文学をふまえた上で、その時代の書の特徴を講義する。						
到達目標	日本の書の歴史といってもただ単に書が時代とともにあったのではなく、書はそれぞれの時代を反映して変化し続けているのである。そこでこの授業では、各時代の背景と書の特徴を結びつけて、日本の書の歴史についての知識を習得する。						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業内容の説明や持ち物や注意事項の伝達） 第2回：日本書道史概要解説、年表チェック。 第3回：聖徳太子以前（漢字の伝来 文献記録と実物文字資料）。 第4回：これより聖徳太子以後 大和時代（模倣期）。 第5回：奈良時代（前項の続き、天平文化）。 第6回：平安時代初期（過渡期 三筆）。 第7回：平安時代中期～後期（完成期 三蹟 古筆名品）。 第8回：平安時代中期～後期（前回の続き 古今集との関係）。 第9回：仮名の変遷についてのまとめ。 第10回：平安時代末～鎌倉時代（継承期 忠道、俊成、西行、後鳥羽天皇、定家、平家納経）。 第11回：室町時代（衰微期 禅林墨跡）。 第12回：安土桃山時代～江戸初期（復興期 寛永の三筆）。 第13回：江戸時代～明治初期（普及期 御家流 儒学者、文人の書）。 第14回：明治時代以後（楊守敬来日、北碑の書 難波津会、古筆の復興 新時代の書家達）。 第15回：定期試験。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を読んでくること。 授業後：授業で学んだことをもう一度読み直す際に、併せて図書館や手持ちの日本史や書作品について書いている本を見てみるとより理解が深まり、レポート作成のときに役立ちます。						
授業方法	講義と実技による。						
評価基準と評価方法	平常点20%、提出課題30%、定期テスト50%による総合評価。						
教科書	「日本書道史年表」 名児耶明編 二玄社刊 定価¥1470 ISBN4-544-01242-2						
参考書	必要に応じプリント配布						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶA／日本文化特殊講義A						
担当教員	田中 まき						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術工芸における平安文学の享受						
授業の概要	<p>平安時代の物語や歌集は、その時代だけでなく、連綿と読み継がれ、後世に多大な影響を与えてきた。それは文学の面だけではなく、文化全般に享受され、美術・工芸作品としても様々な多くの作品を生み出した。美しい料紙に流麗な文字で書かれた『西本願寺本三十六人集』や『元永本古今和歌集』などの豪華な装飾本歌集や、国宝『源氏物語絵巻』や『伊勢物語絵巻』などの絵巻から、王朝文化の華やかさや技術の高さを窺うことができる。</p> <p>本授業では、このような平安文学の影響のもとに製作された美術・工芸品について、もとの平安文学を鑑賞するとともに、それがどのように享受されてきたか、その様相を講義する。</p> <p>それらの美術・工芸品について、理解しやすいように、複製を示したり、パソコンやDVDの画像をプロジェクターで示したりしながら解説する。</p>						
到達目標	美術・工芸品における平安文学の享受の様相を具体的に理解する。						
授業計画	第1回 平安文学とその影響を受けた美術・工芸品についての概説 第2回 屏風歌と屏風絵 第3回 『古今和歌集』の写本（高野切・元永本・伝公任筆本・唐紙卷子本など） 第4回 『西本願寺本三十六人集』 第5回 歌仙絵と『佐竹本三十六人集』 第6回 古筆切と手鑑 第7回 冷泉家の至宝 第8回 国宝『源氏物語絵巻』 第9回 『伊勢物語絵巻』（白描梵字経下絵・久保惣本など） 第10回 本阿弥光悦と嵯峨本（古活字本）の刊行 第11回 絵入り版本の盛行 第12回 俵屋宗達と『伊勢物語図色紙』 第13回 尾形光琳の『伊勢物語』享受（国宝『燕子花図屏風』など） 第14回 古典文学をモチーフとした調度や衣装 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	古典文学と関わりのある美術・工芸品に興味を持ち、それらが扱われた本やテレビ番組を見たり、展覧会に出かけたりしてほしい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（90%）と平常点（10%）						
教科書	『カラー版 王朝文学選』岡野通夫・小山利彦監・奈古忠國編（おうふう）978-4-273-02212-9 プリントを併用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶB／日本文化特殊講義B						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	物語の中世						
授業の概要	御伽草子は、主として室町時代に広く楽しまれた物語類をいう。今回は、まず、誰もがよく知っている『浦島太郎』を読み、御伽草子の文体に親しみたい。次いで、実在の人物をモデルにしてできた『小町草子』を通して、中世の物語がどのように形成されていったかを考究する。						
到達目標	平安時代の高度に文学的な物語から、今日のおとぎ話に至る、我が国における「物語」という文化に対する理解を深める。						
授業計画	1) 物語概説 2) 『御伽草子』について－その1 3) 『御伽草子』について－その2 4) 『浦島太郎』を読む－その1 5) 同上－その2 6) 同上－その3 7) 御伽草子の文体 8) 『小町草子』を読む－その1 9) 同上－その2 10) 同上－その3 11) 同上－その4 12) 同上－その5 13) 御伽草子の生成－その1 14) 同上－その2 15) まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講読箇所をあらかじめ音読しておくこと						
授業方法	講義を中心とし、適宜、講読を交える						
評価基準と評価方法	レポート（1回）と試験						
教科書	プリントによる						
参考書	教室で指示する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶC／日本文化特殊講義C						
担当教員	田中 まき						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本人と旅						
授業の概要	現代と違って、昔の旅は種々の困難や特別な事情のある旅であった。古代や中世の人々はどのような旅をしたのか。旅が現在のように娯楽になったのはいつのことなのか。本授業では、そのような日本人と旅の関係について探究したい。具体的には、古代から近世に至る文学に描かれている旅について読み解いて行く。						
到達目標	古典文学に描かれた古代から近世における旅の様相を理解する。						
授業計画	第1回 神話におけるヤマトタケルの旅 第2回 万葉人の旅 第3回 菅原道真の大宰府への左遷 第4回 『伊勢物語』東下り 第5回 『土佐日記』の旅 第6回 『更級日記』の旅 第7回 王朝人の寺社参詣の旅 第8回 西行と歌枕 第9回 平家の都落ちと『平家物語』 第10回 『十六夜日記』の旅 第11回 謡曲における旅 第12回 芭蕉の『奥の細道』の旅 第13回 道行文と『曾根崎心中』死出の道行 第14回 伊勢参りの流行と『東海道中膝栗毛』 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業では古典文学における旅の様相を読み取って行くので、プリントの文章が読解できるよう復習してほしい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（90%）と平常点（10%）						
教科書	プリントを併用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶD／日本文化特殊講義D						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本芸能史入門・歌舞伎						
授業の概要	江戸時代を代表する芸能である歌舞伎について考える。異常な行動をすることを戦国末期には「かぶく（傾く）」といい、熱病のように流行した。社会の混乱の中でこうした異常な行動を取る「かぶきもの」が増えていったが、やがてその精神だけが芸能として残った。それが「かぶき」である。現代にも続くこの芸能について、入門者用にその概略を考えてみたい。						
到達目標	日本文化の代表の一つである歌舞伎の基礎と概要を学ぶ						
授業計画	第1回 歌舞伎入門 第2回 歌舞伎の歴史1 成立から元禄歌舞伎まで 第3回 歌舞伎の歴史2 江戸歌舞伎の流行から明治まで 第4回 歌舞伎役者1 歴史と役柄 第5回 歌舞伎役者2 身分と生活 第6回 歌舞伎の観客 第7回 歌舞伎の劇場 第8回 歌舞伎のドラマ1 戯曲 第9回 歌舞伎のドラマ2 種類 第10回 歌舞伎の演出1 音楽と舞踊 第11回 歌舞伎の演出2 大道具・小道具 第12回 歌舞伎の作品1 歌舞伎18番 第13回 歌舞伎の作品2 義太夫狂言 第14回 歌舞伎の作品3 舞踊劇 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のAVセンターにあるDVDで舞台映像を見て学ぶ必要がある						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	プリントを配付						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化入門						
担当教員	片岡 利博						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	高校までに学んできた古典文学作品についての知識を体系的に整理するとともに、それぞれの作品が生み出された歴史的背景と関連づけて理解させ、日本文化の一環として文学作品を捉える視点を修得させる。						
授業の概要	多様な古典の世界を学びつつ、高校までの勉強とはひと味違った形で、日本文化や日本文学の世界を紹介してゆく。						
到達目標	個別の作品を文化史の流れの中に位置づけて捉えることができるようにする。						
授業計画	1 日本文学のジャンルと歴史区分 2 口承と漢字 3 和習漢文 4 日本語のエクリチュール 5 天皇制と宮廷サロン 6 伝承話型 7 神々と仏教 8 年中行事 9 制度と政治 10 通過儀礼 11 恋愛と結婚 12 医療と呪術 13 命と心と身体 14 本の歴史 15 総括と試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前の予習はとくに必要なし。 授業後、授業内容を反芻し、要点を自力で整理しておくこと。						
授業方法	講読を交えての講義						
評価基準と評価方法	出席点50点と、レポートおよび期末試験50点						
教科書	プリントによる。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化入門						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	高校までに学んできた古典文学作品についての知識を体系的に整理するとともに、それぞれの作品が生み出された歴史的背景と関連づけて理解させ、日本文化の一環として文学作品を捉える視点を修得させる。						
授業の概要	多様な古典の世界を学びつつ、高校までの勉強とはひと味違った形で、日本文化や日本文学の世界を紹介してゆく。						
到達目標	個別の作品を文化史の流れの中に位置づけて捉えることができるようにする。						
授業計画	1 日本文学のジャンルと歴史区分 2 口承と漢字 3 和習漢文 4 日本語のエクリチュール 5 天皇制と宮廷サロン 6 伝承話型 7 神々と仏教 8 年中行事 9 制度と政治 10 通過儀礼 11 恋愛と結婚 12 医療と呪術 13 命と心と身体 14 本の歴史 15 総括と試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前の予習はとくに必要なし。 授業後、授業内容を反芻し、要点を自力で整理しておくこと。						
授業方法	講読を交えての講義						
評価基準と評価方法	出席点50点と、レポートおよび期末試験50点						
教科書	プリントによる。						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本文学史A						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文学の基礎 上代から近世まで						
授業の概要	文字を持たなかった日本人は、中国の文字を使って日本語を文字として残した。そうまでして残したかった「ことば」とは何か。平安時代に入ると、漢字を使う文化のもとで、仮名文字も使われるようになり、表現の幅は飛躍的に拡大する。仮名文字はいかに表現を変えたのか。その後の戦乱の世は文化の質をも変えてゆく。滅び行く時代の和歌は文学性の絶頂を迎えたが、それは同時に和歌という形式の限界でもあった。歌の世界は新たな連歌の世界、また俳諧の世界へと展開する。仮名文学も武者の足音が聞こえるような文体で書かれる軍記物語に変化し、繰り返された戦いの後には、より広い階層を対象とした御伽草子や仮名草子、あるいは浮世草子に変わって行く。						
到達目標	日本文学の古代から江戸時代までの大きな流れを作品を通して理解し、日本語の歴史を知る。						
授業計画	第1回 日本語の歴史 第2回 古代の歌 『万葉集』 第3回 古代の物語 『古事記』 第4回 王朝の歌 『古今集』 第5回 王朝の物語 『伊勢物語』 第6回 王朝の物語 『源氏物語』 第7回 中世の和歌 『新古今和歌集』 第8回 中世の連歌 『水無瀬三吟』 第9回 中世の物語 『平家物語』 第10回 中世の随筆 『徒然草』 第11回 中世の物語 御伽草子俳諧の連歌 第12回 近世の俳諧 貞徳と宗因と芭蕉 第13回 近世の物語 浮世草子 第14回 近世の物語 読本・草双紙 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で取り上げる作品を予習し、また授業中に指示する作品を読んで復習する必要がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	『日本古典読本』秋山虔・桑名靖治・鈴木日出男著 筑摩書房 ISBN: 448091708X						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文学史B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「文学史」の視点から見る「作品」						
授業の概要	明治・大正・昭和期の文学作品を文学史の観点から読み解く。文学作品を個々別々のものとして捉えるのではなく、様々な連鎖の中で有機的に読み解く作業をなす。細部を通して見えてくる文学史の全体像の構築が最終目標である。						
到達目標	明治・大正・昭和期の文学を時流に沿いながら深く理解することを目指す。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代の文学とは？ 第3回 明治期の散文 導入 第4回 明治期の散文 応用 第5回 明治期の韻文 第6回 大正期の散文 導入 第7回 大正期の散文 応用 第8回 大正期の韻文 第9回 昭和期の散文 導入 第10回 昭和期の散文 応用 第11回 昭和期の韻文 第12回 戦後の文学 導入 第13回 戦後の文学 応用 第14回 まとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	『近代文学年表』双文社出版 ISBN:4-88164-031-3						
参考書	授業中に指示						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	文法・敬語の基礎知識／国語学講読D						
担当教員	村上 敬一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語文法・敬語についての基礎的研究						
授業の概要	現代日本語の課題のひとつに、多言語・多文化共生社会の実現がある。同じ言語を使用する人々はもちろん、異言語・異文化の人々が相互に理解し、尊重し合って生きていくためには、ことばや文化、生活習慣や価値観の多様性を認め合うことが不可欠である。この講義では、日本語の文法、敬語のしくみとその効果的な運用について考えることで、気持ちや考えを伝え合うことばのはたらき、伝え合うことによって人間関係を築く話しことばのはたらきについても考えを深めていきたい。						
到達目標	1. 日本語の敬語のしくみと運用について規範に則った適切な運用ができるようになる。 2. 日本語文法の基礎を学び、その構造を客観的に捉えられるようになる。						
授業計画	第1回 話しことばと敬語 第2回 敬語と人間関係 第3回 敬語の種類とはたらき① 尊敬語 第4回 敬語の種類とはたらき② 謙譲語 第5回 敬語の特別な形 丁寧語、美化語 第6回 第三者に対する敬語 第7回 間違いやすい敬語 二重敬語 第8回 慣用句、ことわざ、四字熟語 第9回 日本語の文法① 主語について 第10回 日本語の動詞 第11回 日本語の形容詞 第12回 日本語の文法② テンス、アスペクト、モダリティについて 第13回 日本語の助詞① 格助詞、終助詞を中心に 第14回 日本語の助詞② 接続助詞を中心に 第15回 総論と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って、教科書、プリントを事前に読んでおくこと。 授業後学習：授業後に簡単なレポートを課すことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	出席40%、レポート20%、期末試験40%						
教科書	『図解日本語』沖森卓也ほか3名著、三省堂 ISBN 4-385-36242-4						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの基礎						
担当教員	吉岡 美賀子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広義のプレゼンテーションにおける技術の理解と習得						
授業の概要	今やビジネスの世界では定番となっているプレゼンテーション。はたして、ビジネスだけのものでしょうか。人前で自社の製品をアピールするというのがプレゼンテーションというのであれば、誰かに自分の意見をアピールするということもプレゼンテーションの一つであり、原点です。そう考えると、ビジネスにおいてだけではなく、日常にもプレゼンテーションの要素はあふれています。本講義では、狭義のプレゼンテーションではなく、広義のプレゼンテーションに焦点をあて、人前で話すことへの基礎を作ることを目的としています。						
到達目標	人前で話すために必要な技術、心構えを理解し、実践する。						
授業計画	第1回 発声練習 第2回 滑舌練習 第3回 アクセント 第4回 一番短いプレゼンテーション—CM 第5回 CM読みの実践1 第6回 CM読みの実践2（声の表情を変えて） 第7回 フリートーク 第8回 ビブリオバトルとは 第9回 ビブリオバトルの実践 第10回 ビブリオバトルの実践（仕上げ） 第11回 第一印象の作り方 第12回 朗読について 第13回 原稿の作り方 第14回 朗読の実践 第15回 読み聞かせ （受講者数によって内容が前後することがあります。）						
授業外における学習（準備学習の内容）	◎ビブリオバトル—2分程度で本を紹介する。紹介したい本を選んで、紹介ポイントを探しておく。 ◎朗読—題材は自由。時間は2分程度。コピー、手書き等で原稿を作り、読むときの工夫を書きこんでから、一部コピーしたものを発表時に提出すること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	実技40%、ミニレポート(授業の中で提出)60%。欠席は減点、遅刻は3回で欠席1回と同等扱い。3分の2以上の出席と課題実技（ビブリオバトルと朗読）がなければ、単位は認めない。						
教科書	なし						
参考書	なし						